城と史蹟を歩く会　平成１５年後半のスケジュール

第２４回　７月６日（日曜日）　**夏期研修会**（資料代３００円＝予告編は発行しません）
１３時３０分～１６時３０分ころ、八幡公民館視聴覚室
①近世城郭のみかた（仮題）　　山岸弘明
②金杉浜塩田の開発（仮題）　　高澤恒子
③房総の維新戦争（仮題）　　竹内　克
発表内容を掲載した参考資料「上総市原」（市原市文化財研究会会誌）第１４号を会場で実費販売いたしますのでご希望の方はどうぞ

第２５回　９月１６日（火曜日）　**護国寺と江戸川周辺を歩く**
往路＝八幡宿８時０９分、蘇我１６分着、３６分発（京葉線快速、前の方乗車）新木場９時１６分着、（有楽町線）護国寺１０時００分ころ着、改札口集合
復路＝江戸川橋１６時３０分ころ乗車（有楽町線）新木場、蘇我経由、八幡宿１８時こ着
主要コース＝豊島が岡御陵、護国寺、鬼子母神出現所、東京カテドラル大聖堂、新江戸川公園（昼食）、関口芭蕉庵、椿山荘、神田上水跡、関口大洗堰
雨天予備日＝９月１７日（水曜日）

第２６回　１０月８日（水曜日）　**深川に江戸を歩く**
往路＝八幡宿８時０９分、千葉２４分着、４８分発（②番線総武各駅前の方乗車）本八幡９時１７分着、（都営新宿線）森下１０時００分ころ着、都営Ａ３側改札口集合
復路＝東西線門前仲町１６時３０分ころ乗車、西船橋、千葉経由、八幡宿１８時ころ着
主要コース＝芭蕉記念館（希望者のみ）、隅田川遊歩道、芭蕉庵展望公園、清澄庭園（昼食）、霊厳寺、紀伊国屋文左衛門の墓、深川江戸資料館、深川不動尊、富岡八幡宮
雨天予備日＝１０月１５日（水曜日）

第２７回　１１月９日（日曜日）　**白河小峰城と二本松城、奥州路の城を歩くバスツアー**（特別企画）
往路＝五井駅東口６時００分、八幡公民館１５分、蘇我駅西口３０分（１０分前集合）
湾岸道路、首都高速、東北自動車道、白河、郡山（弁当積込み）、二本松
復路＝往路を逆走。出発地２０時ころ着
見学地＝白河小峰城（石垣、城門、天守閣）、二本松城（高石垣、城門と付櫓、少年隊悲話）
参加費＝６，５００円（バス、参加費、昼食、保険料を含む）
受付開始＝９月１６日。定員（４５名＝補助席使用しない）次第打切り、申込時入金。取消しは１か月前までに。以降は返金できませんので友だちに権利を譲ってください。
申込みは八幡宿＝鷲津寛子４１－５１０１、五井＝高沢恒子２１－４０５３

第２８回　１２月６日（土曜日）　**鎌倉の朝比奈切通しと釈迦堂口を歩く**
往路＝八幡宿７時０４分乗車（先頭１～３両目）東京５７分発（地下①番線）鎌倉８時５２分着（鎌倉駅東口改札前集合）
復路＝杉本寺（バス）鎌倉、鎌倉１６時４５分乗車（先頭車両乗車）八幡宿１８時４１分着
予定コース＝広常やぐら、朝比奈切通し（ハイキングコース）、太刀洗、浄妙寺、報国寺、釈迦堂口、杉本寺（コースの詳細は予告編で発表）
雨天予備日＝１２月７日（日曜日）

注意＊詳細は予告編を参照ください。下見、天候などにより一部コース内容を変更することがあります。

城と史蹟を歩く会　　市原市八幡北町２－１２－１２－５０１　郵便番号２９０－００６９
（ご案内と問い合わせ）　山岸弘明　電話０４３６－４２－２２３７

１）趣旨＝城と史蹟を楽しみながら歩くこと。目でみるよりはむしろ足で見るものだからです。
２）行動範囲＝東京都内、千葉県内など交通費片道１０００円圏内、ホリデーパス圏内とします。
３）定例会＝毎月１回程度。平日を中心に土、日、祭日も。雨天中止は連絡網で予備日に延期します。
４）資格＝通常程度歩けること。会員は原則として毎回参加、欠席は前回受付時またはＴＥＬ連絡。資料準備や雨天連絡などに支障がありますので無断欠席はやめましょう。
５）会員の種類＝会員、土日会員。会員にならなくても１回だけの参加ができます。
６）入会金＝なし。参加費＝毎回５００円＋１００円（アルバムカラーコピー代）。交通費、入場料などは個人負担、弁当持参。
７）保険はありません。会の運営はボランティアで行なわれています。万一の責任は負えませんので、お互いに交通ルールなどに注意しましょう。
８）会員数＝平成１５年６月現在７０名、毎回４０～５０名程度参加します。
（特別企画は本文を参照ください）

以上

城と史跡を歩く会＊第２４回＊夏期研修会資料

平成１５年7月6日

会場＝八幡公民館視聴覚室

1）　近世城郭のみかた　　山岸弘明

2）　金杉浜塩田開発　　高澤恒子

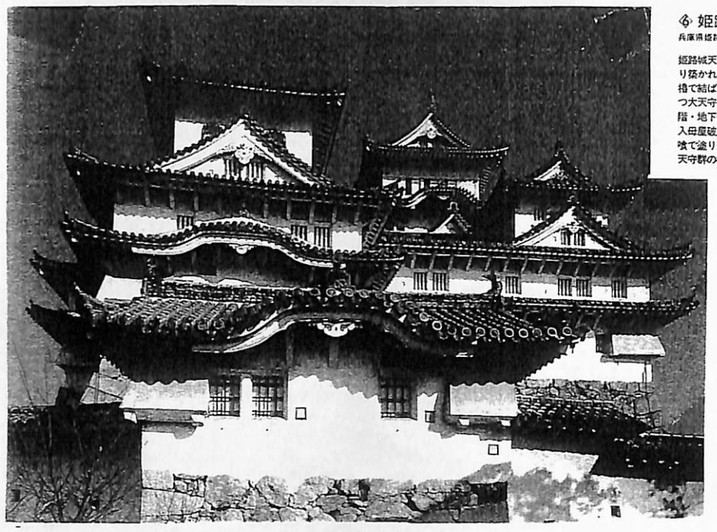
3）　房総の戊辰戦争　　竹内　克

城と史跡を歩く会

3－4

城と史跡を歩く会＊第２４回夏期研修会　資料①

「近世城郭のみかた」　　山岸弘明



⑥ 姫路城天守（国宝・世界文化遺産）
兵庫県姫路市・JR山陽本線姫路駅下車

姫路城天守は慶長13年、「西国将軍」と称された池田輝政により築かれた。大天守を中心に東・西・乾の三基の小天守が渡櫓で結ばれて天守群を形成する。現存天守中最大の規模をもつ大天守は二重の入母屋屋根上に三重の望楼を乗せる五重六階・地下一階の後期望楼型である。唐破風・千鳥破風・比翼入母屋破風などが巧みに配され、また壁面から軒裏まで白漆喰で塗り籠められた姿は「白鷺城」の雅称に似つかわしい。天守群の構成とともに屈指の天守といってよいであろう。

天守群西面　大天守（写真右）は北に渡櫓で結ばれる乾小天守（写真左）と同様に石已櫓と月見櫓をしたがえ、連結式の天守群を構成する。三重六階・層塔型の大天守は外型の下半部を黒塗下見板張とし、質実・剛健な雰囲気を漂わせている。

⑤ 松本城天守群（国宝）／長野県松本市・JR中央本線松本駅下車

④ 彦根城天守（国宝）
滋賀県彦根市・JR東海道本線彦根駅下車

慶長11年井伊直勝により琵琶湖に臨む金亀山山頂に築かれた三重三階・地下一階の望楼型天守で、通し柱を用いず各階ごとに積み上げられる構造となっている。徳川家康の命により京都家の大津城天守を移築したといわれている。二、三重目には金箔押し飾り金具付きの火灯窓を開き、三階には回縁が巡る。各重の屋根に配された切妻破風、入母屋破風と唐破風の構成は変化に富んでおり、まさに国宝の名にふさわしい壮麗な姿を見せている。

③ 犬山城天守（国宝）
愛知県犬山市・名鉄犬山線犬山遊園下車

北東面から望む。三重四階、二重大入母屋屋根の上に望楼を上げた初期望楼型天守で、南面に付櫓を付属する。伝承は文禄4年（1595）～慶長5年（1600）ころ、この地に城を築いた石川光吉が金山城の天守を移築したといわれ（「金山城」）、実際時代にまでさかのぼる現存最古の天守とされていたが、解体修理の結果からそれは否定されることとなった。慶長8年創建で、望楼部はその後の改修とする説が有力である。白漆喰の壁面をもつ天守は古式な風格を漂わせつつ城の外濠をなす木曽川を見下ろしている。

現存天守　国宝4城

⑦ 松江城天守／島根県松江市・JR山陰本線松江駅からバス

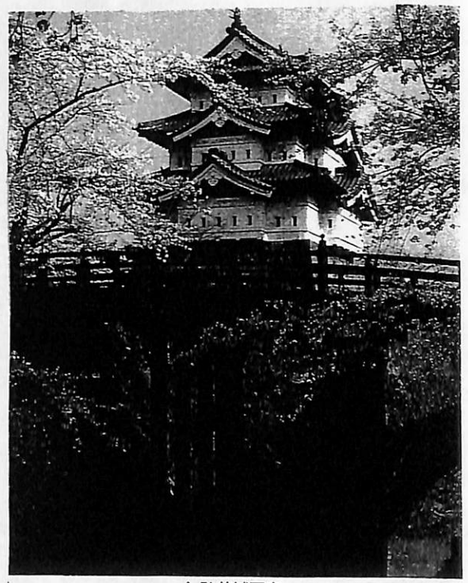
四重五階・地下一階、南面に付櫓を付属した望楼型天守。慶長16年に堀尾吉晴により宍道湖に臨む亀田山に築かれた。一・二重の大入母屋屋根の上に三階の望楼を乗せた構造で、白漆喰塗りとはせず黒塗下見板張とする意匠とともに古風で重厚感あふれる外観の天守である。千鳥城の雅称をもつ。

④ 備中松山城天守
岡山県高梁市・JR伯備線備中高梁駅下車

天守南面。山城の天守としては現存唯一のもので、臥牛山の小松山山頂に建つ。二重二階の小型の層塔型天守ではあるが、南正面に唐破風の出窓（写真中央）、東・北面には入母屋造の突出部を付け、さらに西面には平櫓から伸びる渡櫓（写真左）が天守登り口として付属した複雑な構造となっている。諸史料や唐破風の意匠などからみて慶長期以前にさかのぼる天守を水谷氏が天和元年～３年（1681～83）に改築したものとも考えられる。

③ 丸岡城天守
福井県丸岡町・JR北陸本線福井駅からバス

二重三階の小規模な天守である。一階の大入母屋屋根上に二、三階の望楼部を乗せ、一階と二・三階部を結ぶ通し柱がない点や、三階が白漆喰塗籠となっておらず、柱などをそのまま見せる意匠となっているなどの点で典型的な初期望楼型天守とされている。通説では慶長期以前の築造による現存最古の天守とされていたが、創築年代についてはその後の調査・研究で江戸初期という説も出ている。雪の多い地方の天守らしく屋根は石瓦葺となっている。



① 弘前城天守／青森県弘前市・JR奥羽本線弘前駅からバス

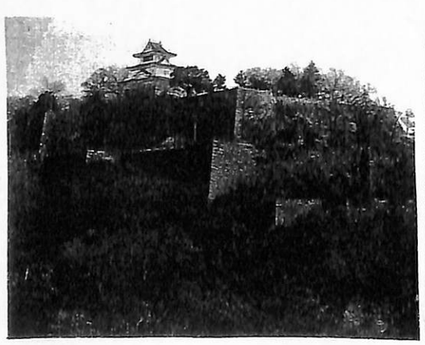
本来の五重天守が焼失したため、天守代用の三重櫓として文化７年（1810）に再建した三重三階天守である。写真は天守南東面であるが、この２面にのみ一、二階に切妻屋根の張り出しを設けて、全体的に軽薄な感じの層塔型天守に変化をつけている。

山内一豊が慶長８年に創建した高知城天守は享保12年（1727）に火災により焼失、延享４年（1747）に再建された天守が現存するものである。再建に当って山内一豊が築いた天守を忠実に再現しており、江戸中期の天守でありながら四重六階の望楼型で、最上階に高欄を巡らすなど古式な姿となっている。

⑧ 高知城天守
高知県高知市・JR土讃線高知駅下車

⑨ 宇和島城天守
愛媛県宇和島市・JR予讃線宇和島駅下車

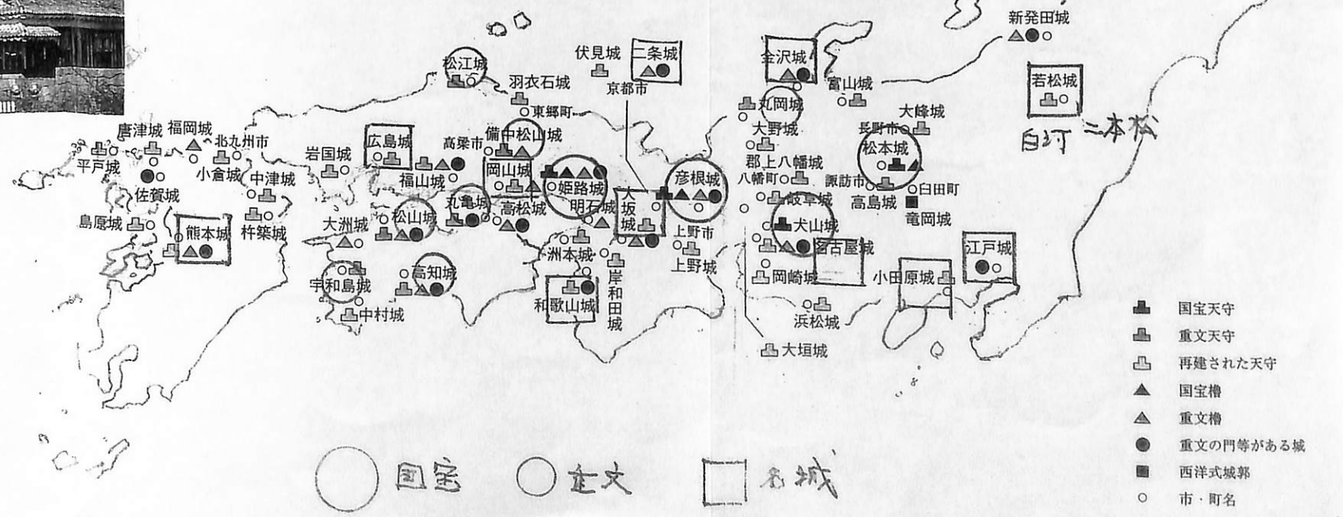
初代天守は築城家として名高い藤堂高虎が慶長６年に築いた望楼型天守であったが、年月とともに破損が進んだため、新規に築かれたものが現存する宇和島城天守である。伊達宗利が寛文５年（1665）に完成した。三重三階の層塔型ではあるが、二、三重に千鳥破風や唐破風などの飾破風を配した装飾性の高い外観を呈している。



⑩ 伊予松山城天守／愛媛県松山市・JR予讃線松山駅から伊予鉄道大街道駅下車

⑫ 丸亀城
香川県丸亀市・JR予讃線丸亀駅下車

現存天守12城（寛文）



1）　土＋成＝城。はじめ土からなった城（プロローグ）

①国語辞典では、城＝軍事的建造物とある。

②その歴史は古代、集落を外敵から守る城柵に始まるが、中世には地方で力をつけた武士たちの拠点として居館と山城が築かれる。中世の城は規模も小さな土の城であったが、戦国末期から近世初頭にかけて急激に発展する。激しい争乱の末に山城から平城へと移行し、領主の権威を象徴する天守が生まれる。江戸時代に入ると幕府は１国１城制として築城を制限し、明治維新の近代国家の成立でその使命を終えた。

②城の数＝全国に２万５千、千葉県に千とも。明治維新には城１８０＋陣屋１００＝２８０

全域現存＝ゼロ。本丸周辺が保存される城＝近世城郭のおよそ５分の１

建造物では天守閣１２（国宝４、重要文化財８）。御殿４（国宝１、重要文化財２）

壊滅して標識もない城も少なくない。

＊現存国宝４天守閣＝

姫路城（兵庫県）大天守５層６階地下１階、小天守３など＝元和４年、池田輝政

松本城（長野県）天守５層６階、小天守櫓３＝文禄３年、石川数正

彦根城（滋賀県）天守３層４階地下２階＝慶長１１年、井伊直勝

犬山城（愛知県）天守３層４階地下２階＝元和６年増築完成、成瀬正成（尾張付家老）

＊現存１２城＝弘前城、丸岡城、備中松山城、松江城、丸亀城、高知城、松山城、宇和島城

＊天守閣以外の主要現存建造物＝江戸城田安門、清水門。掛川城、二条城御殿。松前城、新発田城、金沢城、小諸城、名古屋城、膳所城、大阪城、和歌山城、岡山城、福岡城、熊本城の城門、櫓など

③城＝壮大な石垣、水溢れる濠、そびえたつ天守を連想する人が多い。西日本の城から生まれた概念。

④東日本の城の大半は中世の匂い濃い土の城。

＊土の城の代表＝水戸城、佐倉城、古河城、川越城、岩槻城、大多喜城

＊部分石垣の城＝高遠城、笠間城、沼田城、箕輪城

江戸城ですら、西の丸（現皇居）の大部分が土の城に

＊理由＝石材が少ない。関東諸藩が徳川直参を誇って江戸の守りを自認したためなど。

⑤石垣構築技術差を示す好例＝慶長11年江戸城構築のとき、関西大名に石垣、関東大名は土木工事

2）　城主（居城）と陣屋大名（居所）は石高と格式で分ける

①１万石以上が大名＝３百諸候とうたわれたが幕末は２７０家

②城主＝およそ２万石以上の大名。およそ１３０家

城主格＝２万石以下で幕府から城主を名乗ることを許された大名。およそ４０家

③無城（陣屋）大名＝およそ２万石以下の大名。およそ１００家

④石高ランキングベスト５の城

加賀前田家（外様）金沢城１２０万石＝大河ドラマの舞台。現存と復元で雄姿再現。兼六園が有名。

薩摩島津家（〃　）鹿児島城７７万石＝明治維新の原動力となった城。石垣に西南戦争の弾痕も。

陸奥伊達家（〃　）仙台城　６２万石＝北国の雄伊達政宗にふさわしい名城。石塁と隅櫓など。

尾張徳川家（三家）名古屋城６１万石＝尾張名古屋は城でもつ。櫓、門に現存多いが天守は復元。

紀伊徳川家（〃　）和歌山城５５万石＝三家紀州侯の居城。石塁、濠、復元天守。続塀は現存。

⑤極小城主格の城ランキング５（資料により順位変動あり）

美濃遠山家（譜代）苗木城1.0万石＝１万石が信じられないみごとな総石垣が現存。

下野大田原家（外様）大田原城1.1万石＝土塁めぐらせた土の城が公園に。街道の守りが任務。

三河三宅家（譜代）田原城1.2万石＝渡辺華山の城。城址公園に本丸石垣と堀、角櫓を復元。

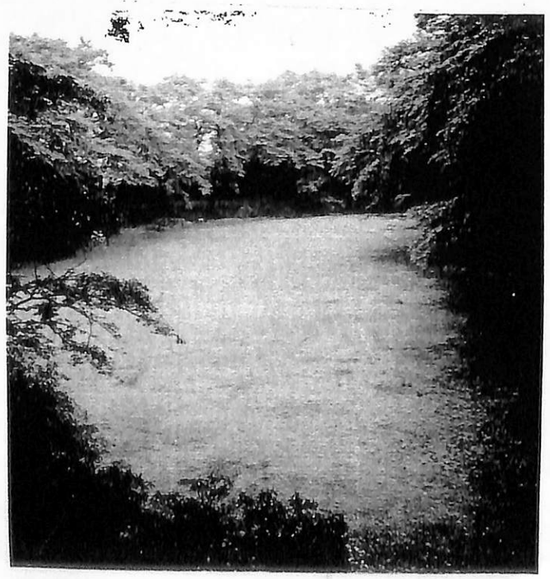
伊勢一柳家（外様）神戸城1.5万石＝野づら積み古式の石垣と天守台が残る。

信濃牧野家（譜代）小諸城1.5万石＝小諸なる古城で有名。千曲川が流れ天守台、城門など残る。

⑥城と陣屋＝中身は一緒。大きい陣屋も石垣、水濠の陣屋もあれば、小さな土の城もあった。

石高ランキング第1位の金沢城

→極小ランキング2位の大田原城



3）　幕末期の房総１６藩（千葉県編入分）の大半は陣屋大名

①藩＝明治維新のとき大名に付けられた藩屏から。江戸時代はなかったが遡って定着

②城主のいる城＝

堀田家（譜代）佐倉１１万石＝房総最大、江戸城東の守り。歴代幕閣を配す。守り堅固な土の城。

久世家（〃　）関宿　４万石＝江戸城、水運の関城。老中城。城址公園に天守閣風関宿城博物館。

黒田家（〃　）久留里３万石＝中世城郭を改修。本丸跡の天守閣風資料館は史実によらない復興。

松平家（〃　）大多喜２万石＝はじめ里見抑え本多忠勝居城。天守閣風博物館これも復興。

③城主格の城＝佐貫阿部1.6万石、鶴牧水野1.5万石

④無城（陣屋）＝飯野保科、勝山酒井２万石、生実森川、多古松平、高岡井上、一宮加納、館山稲葉、小見川内田、請西林、平岡船形１万石

⑤明治維新のとき転封されてきた大名（７＋２家）＝

井上家（譜代）鶴舞６万石＝譜代名門、歴代老中の家柄。浜松から。城主。城は未完で明治維新。

水野家（〃　）菊間５万石＝家康生母実家の名門。沼津から。城主。未完の城、明治維新に。

太田家（〃　）柴山、松尾５万石＝太田道灌後胤。掛川から。城主。

本多家（〃　）長尾４万石＝岡崎本多一族で通称沼田本多。駿河田中から。城主。

西尾家（〃　）花房3.5万石＝横須賀から。城主。

陣屋大名＝米津大網、曽我野戸田家1.1万石、田沼小久保１、松平金ケ崎、桜井１万石

4）　明治維新に８割を棄却。近世～現代、廃城の歴史

①元和の１国１城令＝元和元年、徳川家康の大名統制策。居城以外を棄却させる。

②改易、転封による廃城＝豊臣恩顧、無嗣などの大名を廃絶、繰返された転封で３割近くが廃城に。

③明治維新の廃城令＝明治６年、ほとんどの城を廃城。棄却、払下げ。

廃仏毀釈＝洋風化めざし日本の伝統文化を認めない風潮。

④昭和戦災の被害＝２００市中４０％が罹災

現存２０城（天守閣）中、名古屋、水戸、和歌山、岡山、大垣、広島、福山を焼失

⑤戦後の火災焼失＝松前城

5）　バブル崩壊で天守閣の再建ブームも萎む

①バブル期の再建ラッシュ＝昭和４０年代から６０年にかけて模擬城を含めた再建ブーム。

②復元＝旧位置に正確な資料に基づいて当時のまま再建。

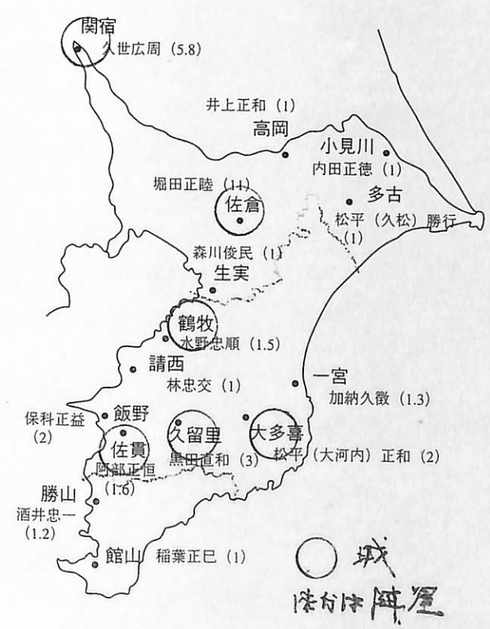
会津若松城、松前城。最近は外観だけ同じならよしとする考え方に変わりつつある。

③復興＝資料がない、または改変再建＝大阪城、名古屋城、小田原城、諏訪高島城、白河小峰城。

④模擬＝史実によらない再建＝大多喜城、館山城、関宿城

⑤城といわない城＝天守閣風デザインの建造物＝千葉市立博物館、熱海城

⑥再建期を失して進まぬ佐倉城の再建計画



幕末の千葉県の城と陣屋

再建された千葉県の城

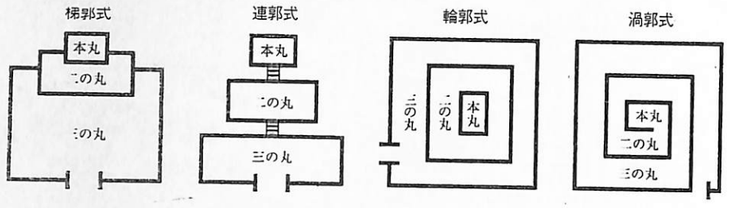
↑大多喜城　↑関宿城

↓館山城

→久留里城

6） **城の立地と縄張り形式**

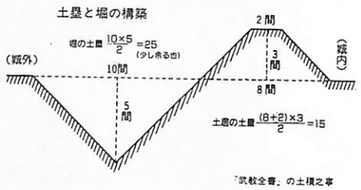
①山城から平山城、平城へ。戦う城から行政の城へ
　山城部分は詰めの城または飾りの本丸＝二本松城、久留里城、鶴牧陣屋、生実陣屋
②海城（海賊城）、川城＝海や川を拠点とした城＝彦根城、高松城、荻城、平戸城、館山城
③縄張りの基本形式＝代表例
　渦郭式＝江戸城
　輪郭式＝大阪城、駿府城、二条城、高田城
　連郭式縄張り＝水戸城、諏訪高島城
　梯郭式縄張り＝名古屋城、佐倉城、白河小峰城
④総構えの城＝江戸城、小田原城

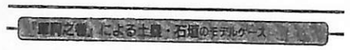


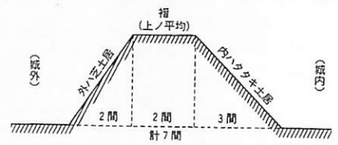
7） **土塁と石垣**

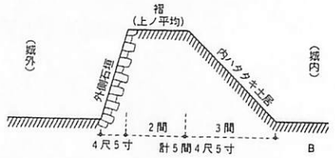
①土塁＝関東に多い土の塁。
　扇のノリ（初期の形）＝自然な角度３０度。
　叩き土居（中世後期以降）＝粘土や小石を混ぜ板枠や板で突固める。板切り技術の発展で４５度。
　芝土居＝土塁の崩壊を防ぐため芝を植える。６０度も。
②石垣の種類
　野石乱積み？（初期の形）＝ただ自然石を積上げる。コーナーの算木組もない。
　野面積み（慶長以前）＝自然石または割石を不揃いのまま積む。目地に隙間、荒い感じ。
　打込みハギ（元和ころ）＝粗加工した石材を積み、隙間に小石を挟む。
　切込みハギ（寛永以降）＝精密加工した石材を積み上げる。整層にするとさらに整然となる。
⑦石垣の作り方
　算木組＝コーナー部は石垣の命、巨石の算木組で堅固に。

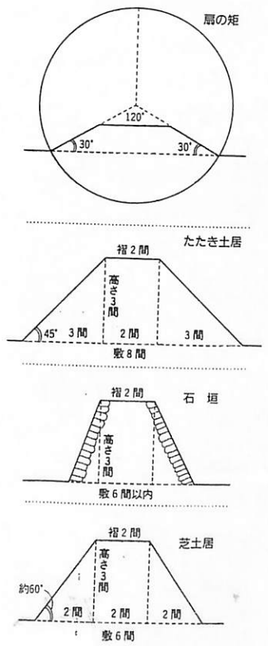
↑上の佐倉城 ↓野石乱積 鳥山城

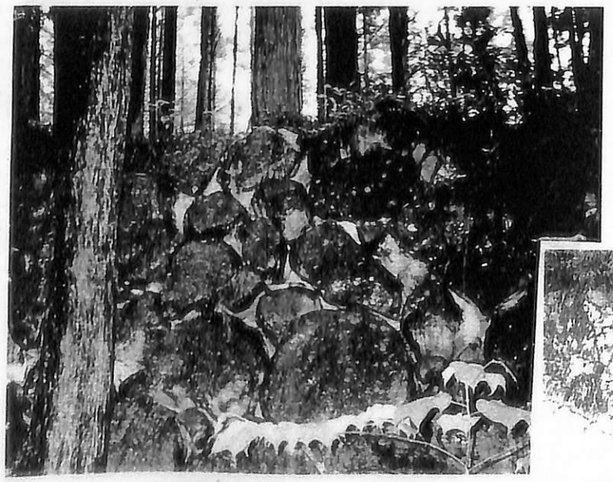




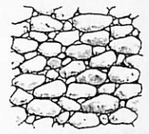
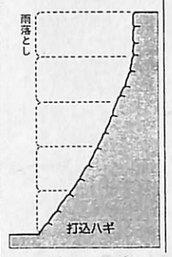
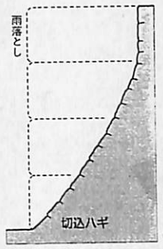


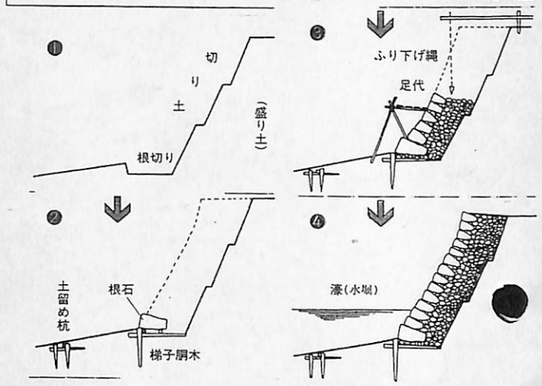


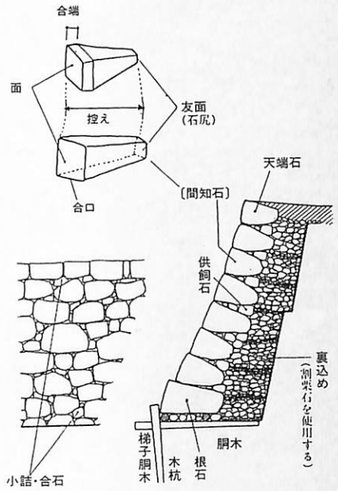


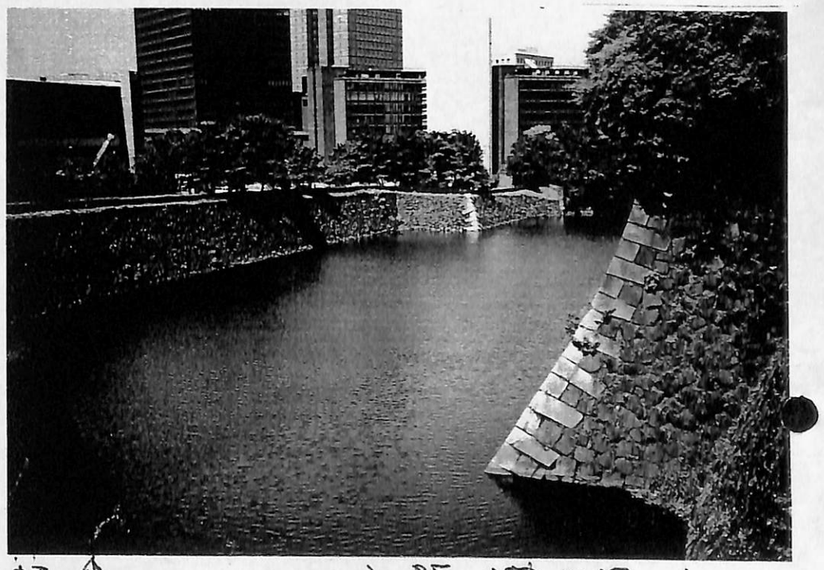


大坪の現在穴太積

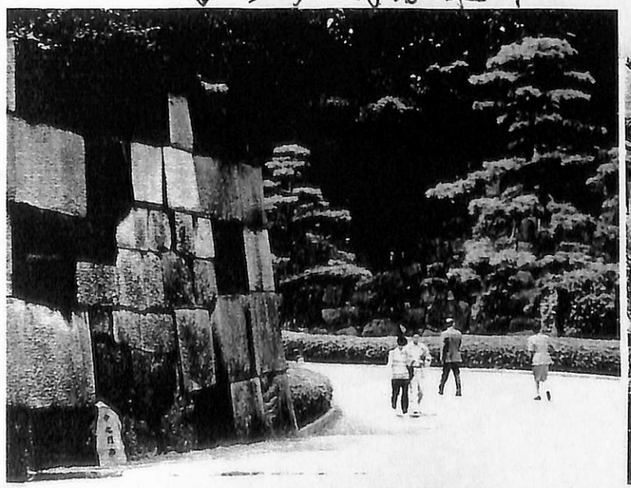
時期	I'）発生期	I）前期	II）最盛期	III）整備期
	天正(1572)以前	天正・文禄年間(1573〜96)	慶長年間(1596〜1615)	元和・寛永年間(1615〜44)
構造	櫓台・門など部分的に用いる。石材小さく粗い感じ。	勾配ゆるく直線的。段状的石垣あり。織豊系城郭に多い。	石垣のゆがみがまだ見られる。勾配に反りがつく。	急勾配で高石垣もできる。平面直角に、端正な姿に整えることができるようになる。
備考	仮設の掘立て建物から礎石建物へ	天守の形成(初期望楼型)	天守の発達(過渡型)	天守の大型化(後期層塔型)
石垣の種類				
積み方		天端石1つ分 野面積	 雨落とし 打込ハギ	 雨落とし 切込ハギ

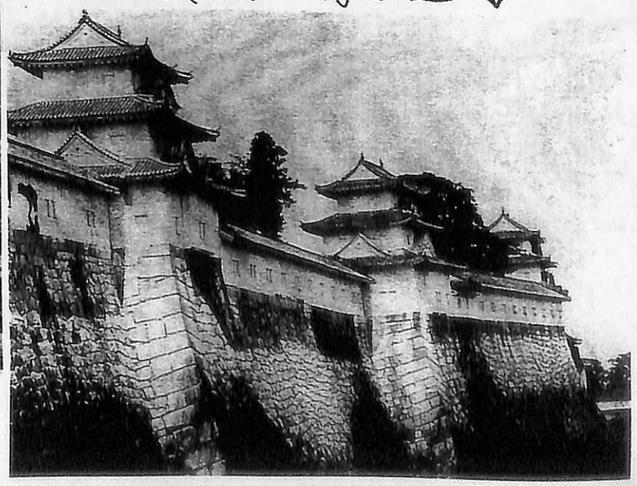






↓江戸城石垣↑　　大阪城石垣↓



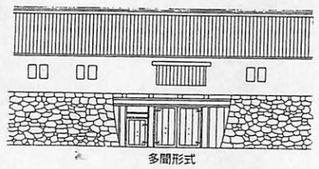


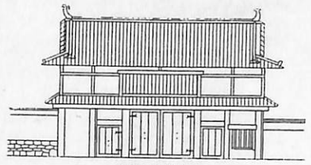
8）　**空堀と水濠**　（水堀と書かないのが正式）
①塁壁の外側に水濠や空堀を設けて攻撃側の障害とする。
②空堀＝山城など水濠が造りにくい城に。（横）堀、縦堀、堀切、畝堀、障子堀
③水濠＝海水や川水、湧水、溜池、泥田などを利用。数mから１００mも。
④形のいろいろ＝箱堀、毛抜堀、薬研堀など。

9）　**虎口と城門**
①虎口（小口）＝城の入口。閉門防御と開門出撃、攻守を兼ねる。周辺を塁壁と堀濠で固める。
食違い、屈曲＝虎口を食違い、屈曲させ、また折坂にする。
升形＝虎口の周囲を土塁か石垣で囲って方形の空間を作り、前後２重に門を構える。
馬出＝虎口の前面に張出した障害物。丸、角、一文字。
②城門の形式
櫓門（渡櫓門、二重門＝楼門形式、多聞形式、物見櫓形式、付櫓形式）
長屋門、棟門、薬医門、高麗門、冠木門、塀重門、埋門

櫓内のいろいろ

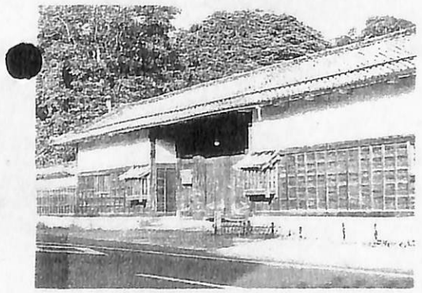
江戸城 田安門 渡櫓内



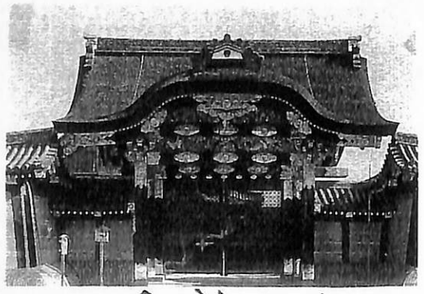


→佐倉城 古安門 櫓内

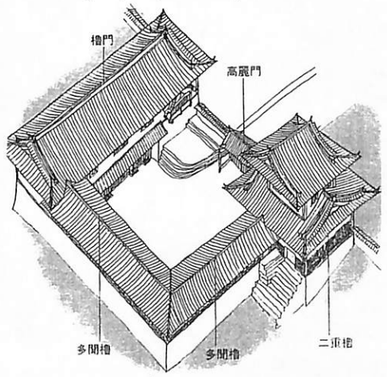
櫓形内



彦根城 長屋門

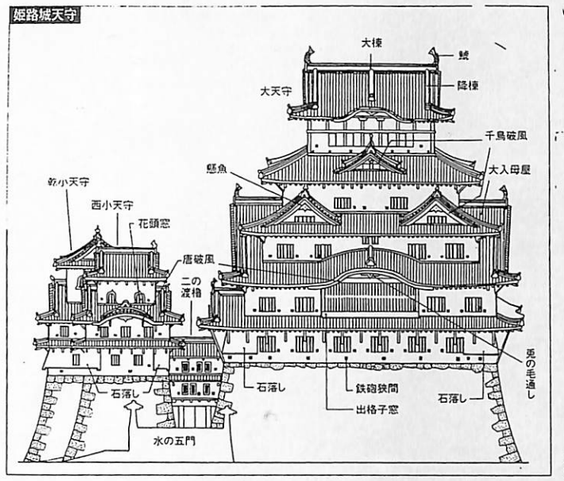


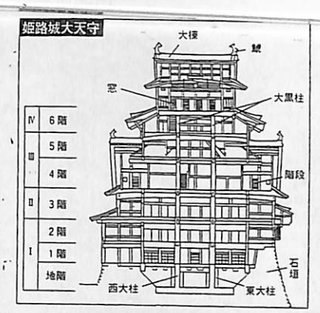
二条城 唐門

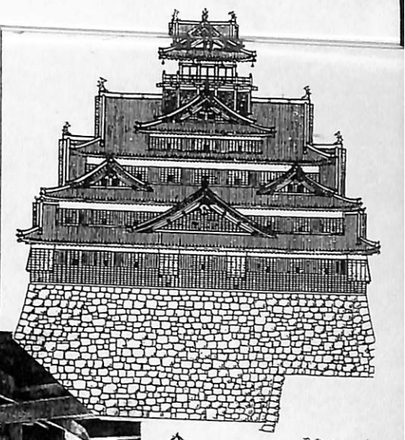


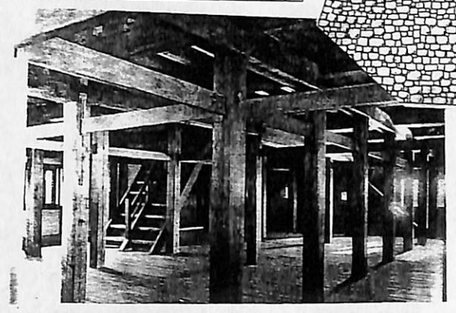
１０）**櫓と天守閣**
①天守閣の定義＝権威の象徴。３～５重（外観）城の中心となる櫓と解釈することが多い。
②御三階櫓＝水戸城、佐倉城、古河城、川越城など関東地方、徳川譜代城に用いられた代用天守閣。
将軍家に遠慮したという石垣、飾り破風のない質素な造り。
③櫓＝物見兼武器、食料、水の貯蔵庫。
④天守閣の歴史＝天正４年、織田信長の安土城天主（天守＝５重７階）に始まる（異説も）。
関が原から大阪の陣までが最盛期、１国１城令で終わる。
⑤望楼型（内縁、回廊）と層塔型（低減率）
⑥白い天守（姫路城）と黒い天守（松本城）＝白は漆喰壁、腐食防止のため下見板張りうるし黒塗装。
⑦天守閣の構造

姫路城天守閣



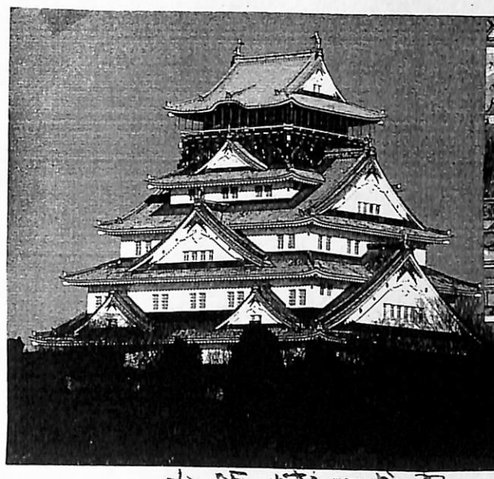






↑安土城天主推定図

←松本城



大阪城天守閣

江戸城

名古屋城天守閣

１１）**御殿**
①御殿は城主居館であり行政を司る藩庁舎でもある。豪壮な桃山殿舎を連ねた。
②藩主御殿は本丸とは限らない。
本丸＝江戸城、名古屋城、高知城（現存）、川越城（現存）、高田城、白河小峰城
２の丸、３の丸＝姫路城、掛川城（現存）
それ以外＝佐倉城（本丸御殿は御成り専用）、上田城
天守閣に居住したと考えている人も多いが、通常施錠され一生のうち数度という城が多い。
③表向＝藩庁舎。接客対面、儀式、政務などの公的部分。玄関、式台、大広間、対面所、能舞台
奥向＝藩主家族の居所（正室は江戸）。藩主の居所を中奥として独立させる城もある。御座間

１２）白河小峰城、二本松城、奥州の城を歩くバスツアーの誘い
①白河小峰城＝南北朝以来の名城。丹羽、阿部10万石ほか、首席老中松平定信居城。明治戊辰の戦いで奥羽列藩同盟の諸藩が新政府軍と戦って落城。本丸、２の丸跡、石垣、堀、門と天守閣を再建。
②二本松城＝丹羽10万石居城。戊辰戦争で新政府軍と戦い落城、二本松少年隊玉砕の悲劇も。本丸、２の丸跡、みごとな高石垣に箕輪門、付櫓を再建。本丸山上からの眺めは抜群。
③今後考えられる日帰りバスツアー＝順次計画
長野県の城＝国宝松本城とその城下を歩く。上田城と小諸城を歩く
静岡県の城＝徳川家康ゆかりの駿府城と浜松城を歩く
山梨県の城＝甲府城と武田躑躅（つつじ）が崎城を歩く
茨城県の城＝水戸城と土浦城を歩く
栃木県の城＝北関東の大田原城、黒羽城、喜連川陣屋を歩く
神奈川県の城＝北条氏ゆかりの小田原城と太閤一夜城、八王子城を歩く

以上

金杉浜塩田開発

高澤恒子

時代　江戸中期の天明年間
　１０代将軍家治
　老中　田沼意次
　勘定奉行　赤井越前守忠晶
　　松本伊豆守秀持

開発者　武州豊嶋郡金杉村庄左衛門（百姓）子孫は白金町の斉藤一久家（屋号でばり）
　〃　坂本村又兵衛（百姓）子孫は五所の今井芳雄家（屋号又兵衛）

金主証人　深川森下町山田屋久右衛門外１０名（内１名ふじや）

普請役（出役）秋月恒次郎
　長谷川権内

開発場所　五井金杉から北側、村田川までの附洲（君塚、五所、八幡村３ケ村）
　飯香岡八幡宮前と八幡港（浜本町）を除く

開発面積　８６町５反９畝１５歩

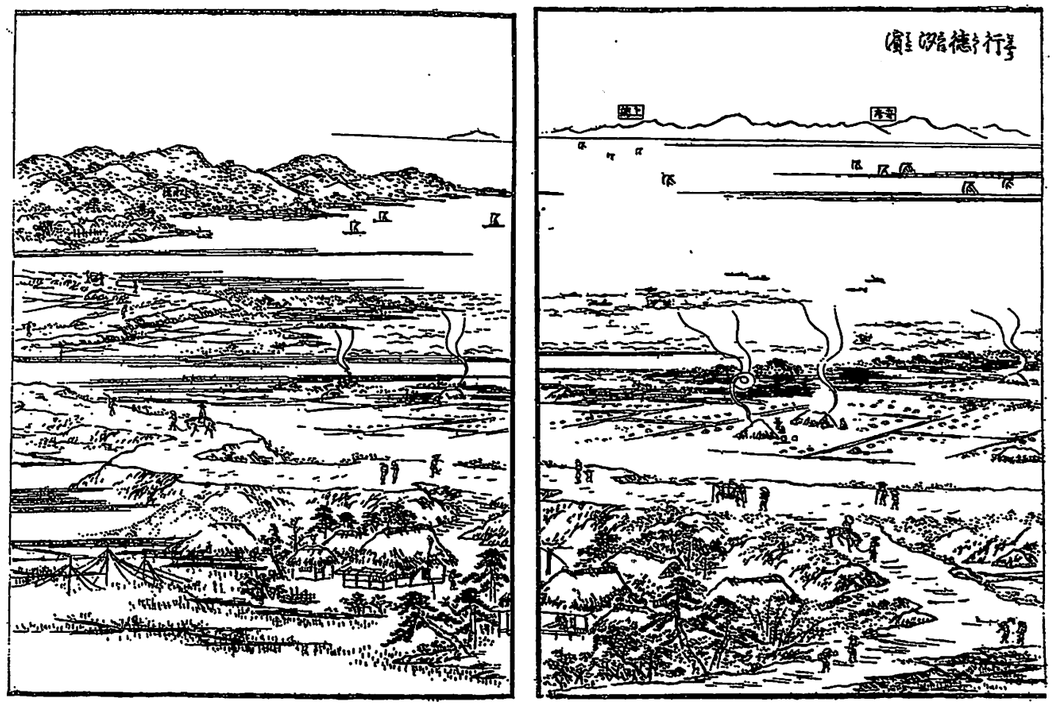
開発までの経緯　天明２年（１７８２）９月　庄左衛門、又兵衛１５０町歩開発を願出る。
　天明３年（１７８３）８月　普請役実地取調べ、８６町５反９畝と決定。
　天明４年（１７８４）７月　願主２人と八幡、五所、君塚３ケ村総代の連署で勘定奉行に提出、許可を得て８６町５反９畝１５歩開発の請書を提出。

工事期間　天明４年（１７８４）から天明６年（１７８６）までの３年間

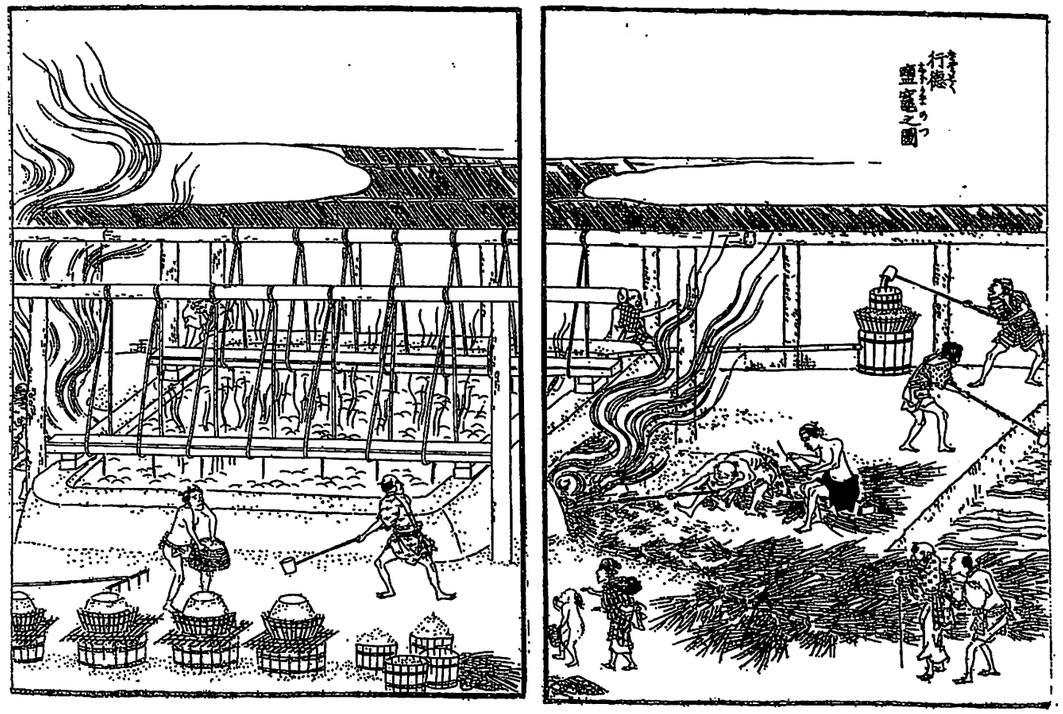
費用　およそ３０００両余（今の５～６億円）

塩浜の名称　金杉浜新田

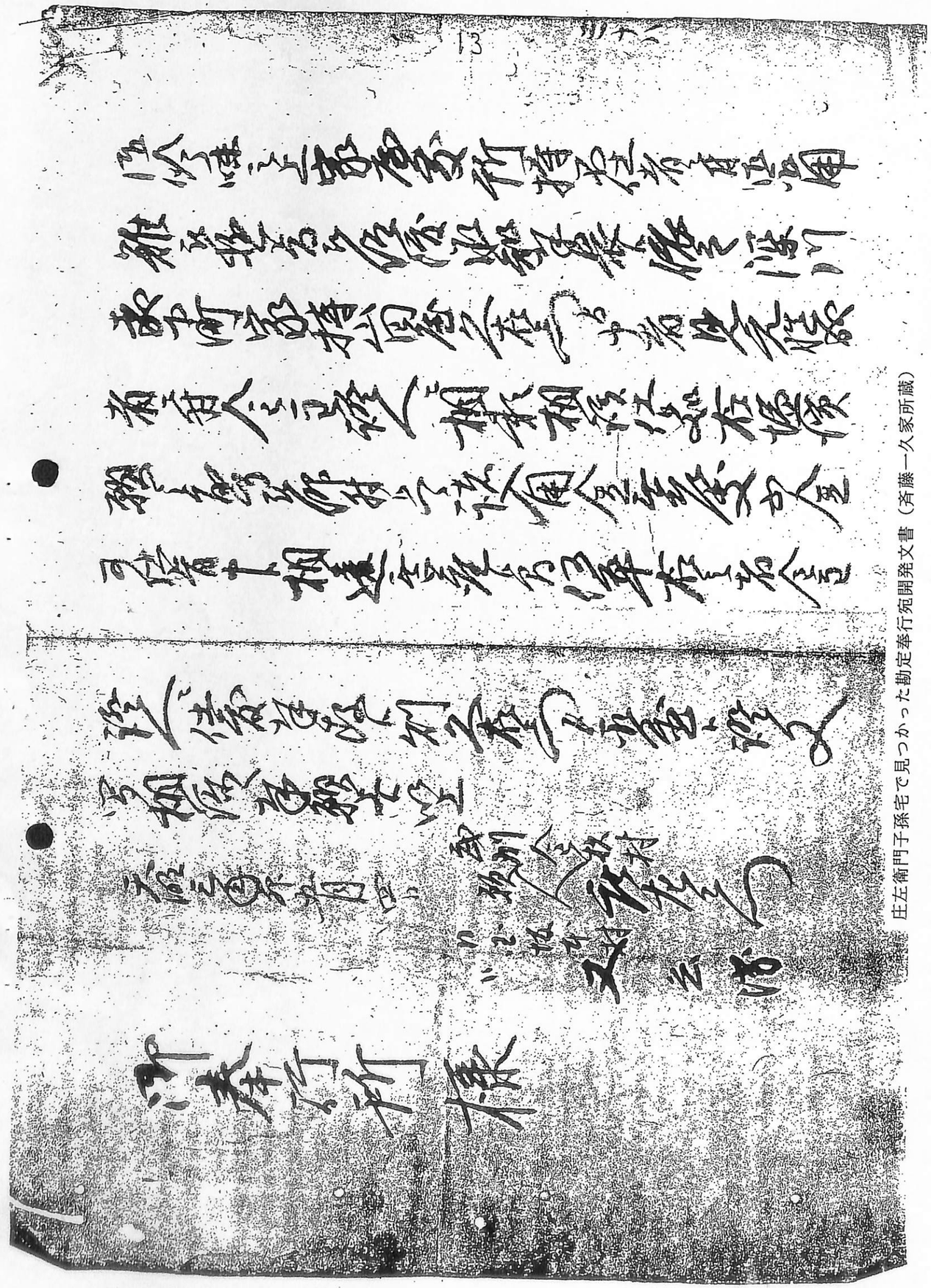
金杉浜その後　寛政３年（１７９１）９月１４日の洪水のため、およそ６０％の塩田破壊された。



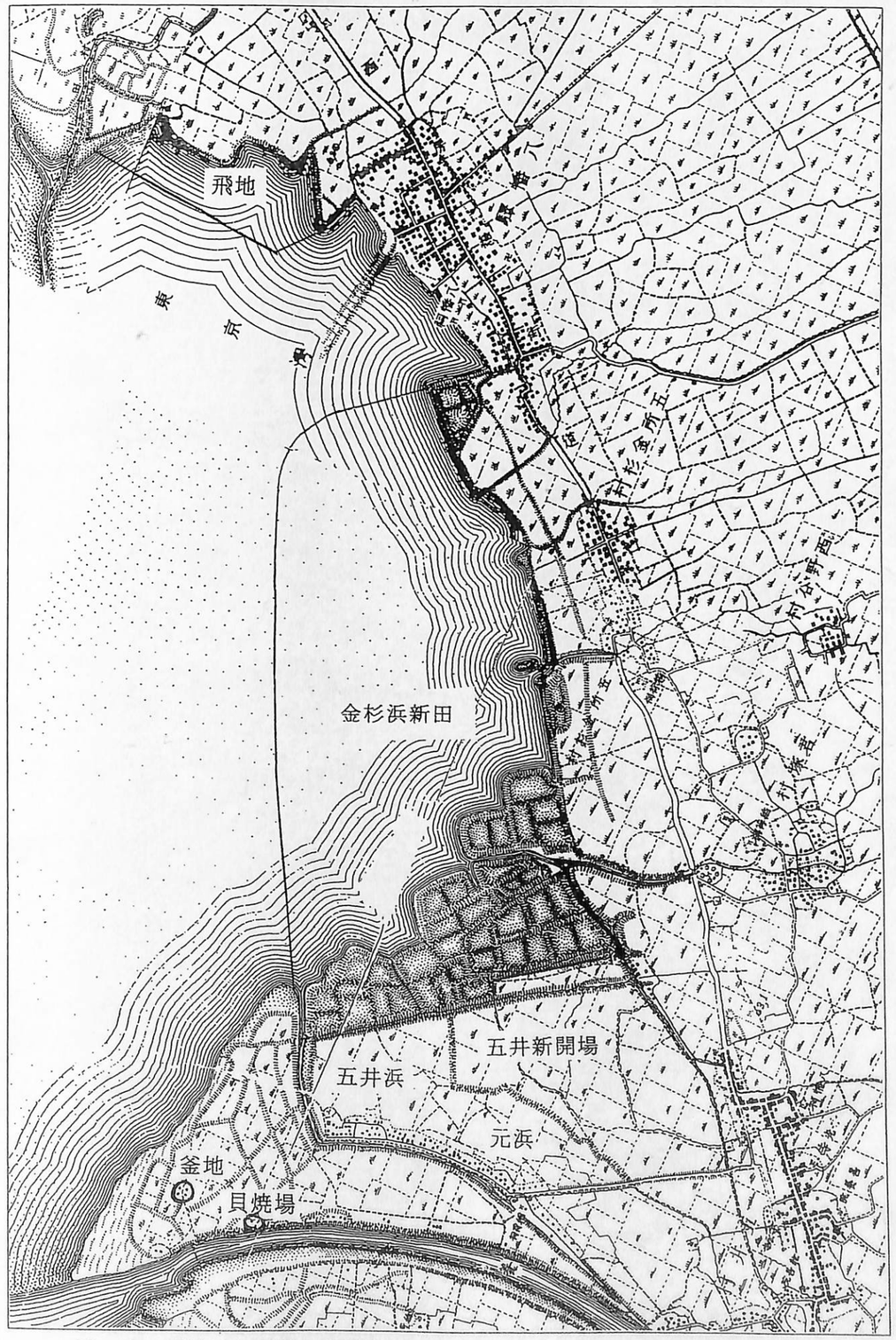
五井の技術を取り入れたという行徳の塩浜（江戸名所図絵）



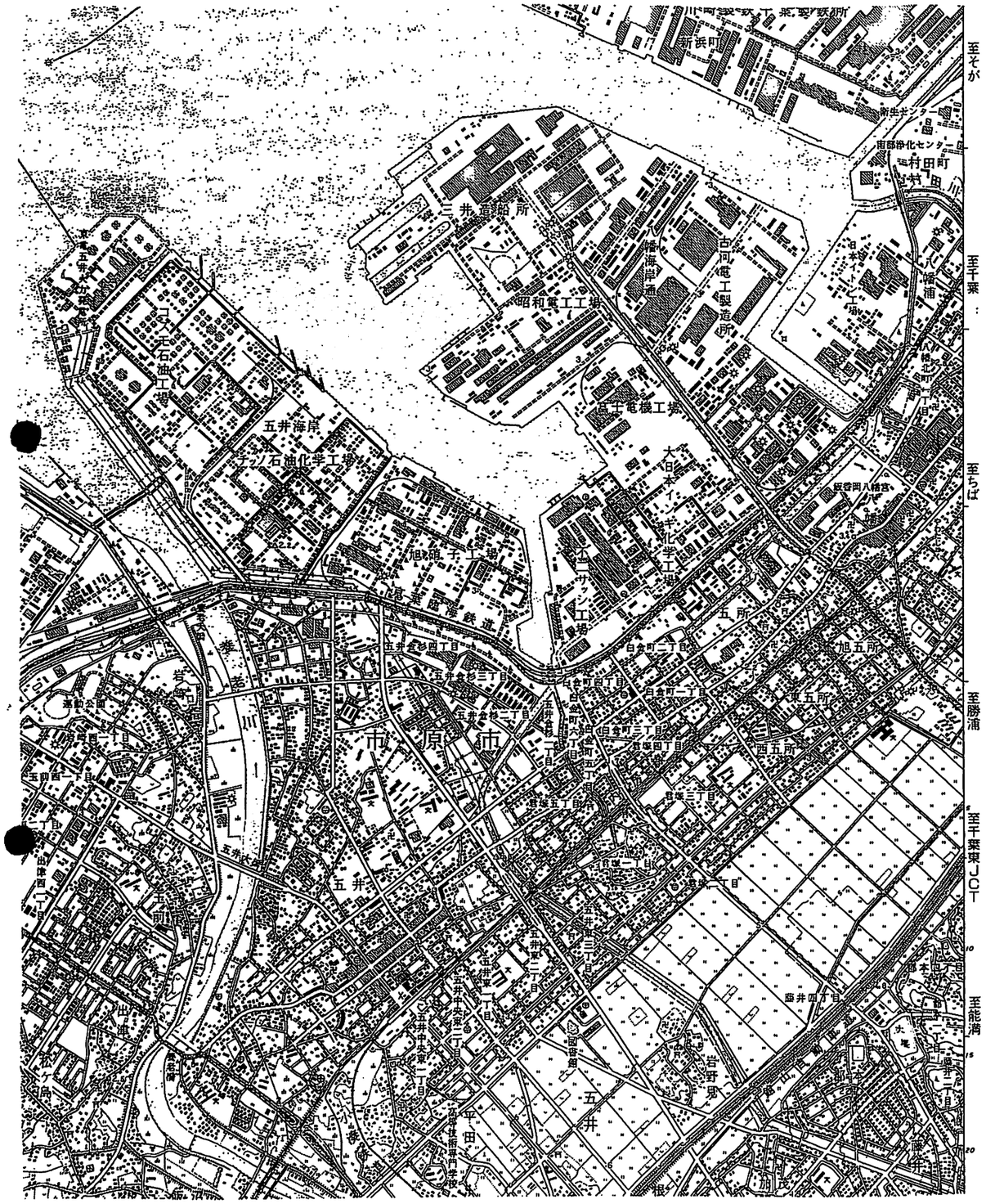
塩焼き小屋の内部（江戸名所図絵）



庄左衛門子孫宅で見つかった勘定奉行宛開発文書（斉藤一久家所蔵）



図－2　明治16年測量の迅速測図。わかりやすいよう開発範囲を加筆した

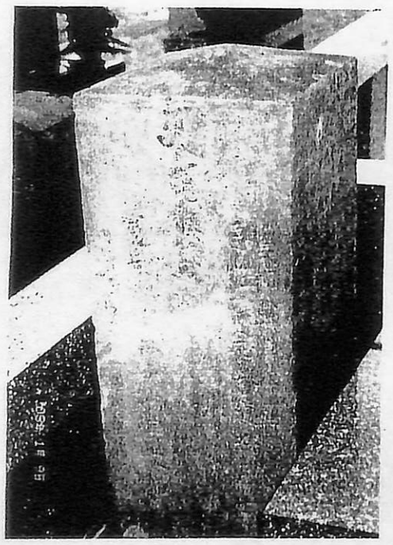

至そが
至千葉
至ちば
至勝浦
至千葉東JCT
至能満
新浜町
新生センター
南部浄化センター
村田町
三井造船所
昭和電工工場
古河電工製造所
五井海岸
石油化学工場
旭硝子工場
大旭日本インキ化学工場
五井
市原市
五所
旭五所
東五所
西五所
白金町二丁目
白金町一丁目
白金町三丁目
五井金杉三丁目
五井金杉二丁目
五井金杉四丁目
五井東三丁目
五井東二丁目
五井東一丁目
五井中央東二丁目
五井中央東一丁目
五井中央西二丁目
五井中央西一丁目
五井西一丁目
五井西二丁目
五井西三丁目
五井西四丁目
五井西五丁目
五井西六丁目
五井西七丁目
五井西八丁目
五井西九丁目
五井西十丁目
五井西十一丁目
五井西十二丁目
五井西十三丁目
五井西十四丁目
五井西十五丁目
五井西十六丁目
五井西十七丁目
五井西十八丁目
五井西十九丁目
五井西二十丁目
五井西二十一丁目
五井西二十二丁目
五井西二十三丁目
五井西二十四丁目
五井西二十五丁目
五井西二十六丁目
五井西二十七丁目
五井西二十八丁目
五井西二十九丁目
五井西三十丁目
五井西三十一丁目
五井西三十二丁目
五井西三十三丁目
五井西三十四丁目
五井西三十五丁目
五井西三十六丁目
五井西三十七丁目
五井西三十八丁目
五井西三十九丁目
五井西四十丁目
五井西四十一丁目
五井西四十二丁目
五井西四十三丁目
五井西四十四丁目
五井西四十五丁目
五井西四十六丁目
五井西四十七丁目
五井西四十八丁目
五井西四十九丁目
五井西五十丁目
五井西五十一丁目
五井西五十二丁目
五井西五十三丁目
五井西五十四丁目
五井西五十五丁目
五井西五十六丁目
五井西五十七丁目
五井西五十八丁目
五井西五十九丁目
五井西六十丁目
五井西六十一丁目
五井西六十二丁目
五井西六十三丁目
五井西六十四丁目
五井西六十五丁目
五井西六十六丁目
五井西六十七丁目
五井西六十八丁目
五井西六十九丁目
五井西七十丁目
五井西七十一丁目
五井西七十二丁目
五井西七十三丁目
五井西七十四丁目
五井西七十五丁目
五井西七十六丁目
五井西七十七丁目
五井西七十八丁目
五井西七十九丁目
五井西八十丁目
五井西八十一丁目
五井西八十二丁目
五井西八十三丁目
五井西八十四丁目
五井西八十五丁目
五井西八十六丁目
五井西八十七丁目
五井西八十八丁目
五井西八十九丁目
五井西九十丁目
五井西九十一丁目
五井西九十二丁目
五井西九十三丁目
五井西九十四丁目
五井西九十五丁目
五井西九十六丁目
五井西九十七丁目
五井西九十八丁目
五井西九十九丁目
五井西百丁目
五井西百一丁目
五井西百二丁目
五井西百三丁目
五井西百四丁目
五井西百五丁目
五井西百六丁目
五井西百七丁目
五井西百八丁目
五井西百九丁目
五井西百十丁目
五井西百十一丁目
五井西百十二丁目
五井西百十三丁目
五井西百十四丁目
五井西百十五丁目
五井西百十六丁目
五井西百十七丁目
五井西百十八丁目
五井西百十九丁目
五井西百二十丁目
五井西百二十一丁目
五井西百二十二丁目
五井西百二十三丁目
五井西百二十四丁目
五井西百二十五丁目
五井西百二十六丁目
五井西百二十七丁目
五井西百二十八丁目
五井西百二十九丁目
五井西百三十丁目
五井西百三十一丁目
五井西百三十二丁目
五井西百三十三丁目
五井西百三十四丁目
五井西百三十五丁目
五井西百三十六丁目
五井西百三十七丁目
五井西百三十八丁目
五井西百三十九丁目
五井西百四十丁目
五井西百四十一丁目
五井西百四十二丁目
五井西百四十三丁目
五井西百四十四丁目
五井西百四十五丁目
五井西百四十六丁目
五井西百四十七丁目
五井西百四十八丁目
五井西百四十九丁目
五井西百五十丁目
五井西百五十一丁目
五井西百五十二丁目
五井西百五十三丁目
五井西百五十四丁目
五井西百五十五丁目
五井西百五十六丁目
五井西百五十七丁目
五井西百五十八丁目
五井西百五十九丁目
五井西百六十丁目
五井西百六十一丁目
五井西百六十二丁目
五井西百六十三丁目
五井西百六十四丁目
五井西百六十五丁目
五井西百六十六丁目
五井西百六十七丁目
五井西百六十八丁目
五井西百六十九丁目
五井西百七十丁目
五井西百七十一丁目
五井西百七十二丁目
五井西百七十三丁目
五井西百七十四丁目
五井西百七十五丁目
五井西百七十六丁目
五井西百七十七丁目
五井西百七十八丁目
五井西百七十九丁目
五井西百八十丁目
五井西百八十一丁目
五井西百八十二丁目
五井西百八十三丁目
五井西百八十四丁目
五井西百八十五丁目
五井西百八十六丁目
五井西百八十七丁目
五井西百八十八丁目
五井西百八十九丁目
五井西百九十丁目
五井西百九十一丁目
五井西百九十二丁目
五井西百九十三丁目
五井西百九十四丁目
五井西百九十五丁目
五井西百九十六丁目
五井西百九十七丁目
五井西百九十八丁目
五井西百九十九丁目
五井西二百丁目
五井西二百一丁目
五井西二百二丁目
五井西二百三丁目
五井西二百四丁目
五井西二百五丁目
五井西二百六丁目
五井西二百七丁目
五井西二百八丁目
五井西二百九丁目
五井西二百十丁目
五井西二百十一丁目
五井西二百十二丁目
五井西二百十三丁目
五井西二百十四丁目
五井西二百十五丁目
五井西二百十六丁目
五井西二百十七丁目
五井西二百十八丁目
五井西二百十九丁目
五井西二百二十丁目
五井西二百二十一丁目
五井西二百二十二丁目
五井西二百二十三丁目
五井西二百二十四丁目
五井西二百二十五丁目
五井西二百二十六丁目
五井西二百二十七丁目
五井西二百二十八丁目
五井西二百二十九丁目
五井西二百三十丁目
五井西二百三十一丁目
五井西二百三十二丁目
五井西二百三十三丁目
五井西二百三十四丁目
五井西二百三十五丁目
五井西二百三十六丁目
五井西二百三十七丁目
五井西二百三十八丁目
五井西二百三十九丁目
五井西二百四十丁目
五井西二百四十一丁目
五井西二百四十二丁目
五井西二百四十三丁目
五井西二百四十四丁目
五井西二百四十五丁目
五井西二百四十六丁目
五井西二百四十七丁目
五井西二百四十八丁目
五井西二百四十九丁目
五井西二百五十丁目
五井西二百五十一丁目
五井西二百五十二丁目
五井西二百五十三丁目
五井西二百五十四丁目
五井西二百五十五丁目
五井西二百五十六丁目
五井西二百五十七丁目
五井西二百五十八丁目
五井西二百五十九丁目
五井西二百六十丁目
五井西二百六十一丁目
五井西二百六十二丁目
五井西二百六十三丁目
五井西二百六十四丁目
五井西二百六十五丁目
五井西二百六十六丁目
五井西二百六十七丁目
五井西二百六十八丁目
五井西二百六十九丁目
五井西二百七十丁目
五井西二百七十一丁目
五井西二百七十二丁目
五井西二百七十三丁目
五井西二百七十四丁目
五井西二百七十五丁目
五井西二百七十六丁目
五井西二百七十七丁目
五井西二百七十八丁目
五井西二百七十九丁目
五井西二百八十丁目
五井西二百八十一丁目
五井西二百八十二丁目
五井西二百八十三丁目
五井西二百八十四丁目
五井西二百八十五丁目
五井西二百八十六丁目
五井西二百八十七丁目
五井西二百八十八丁目
五井西二百八十九丁目
五井西二百九十丁目
五井西二百九十一丁目
五井西二百九十二丁目
五井西二百九十三丁目
五井西二百九十四丁目
五井西二百九十五丁目
五井西二百九十六丁目
五井西二百九十七丁目
五井西二百九十八丁目
五井西二百九十九丁目
五井西三百丁目
五井西三百一丁目
五井西三百二丁目
五井西三百三丁目
五井西三百四丁目
五井西三百五丁目
五井西三百六丁目
五井西三百七丁目
五井西三百八丁目
五井西三百九丁目
五井西三百十丁目
五井西三百十一丁目
五井西三百十二丁目
五井西三百十三丁目
五井西三百十四丁目
五井西三百十五丁目
五井西三百十六丁目
五井西三百十七丁目
五井西三百十八丁目
五井西三百十九丁目
五井西三百二十丁目
五井西三百二十一丁目
五井西三百二十二丁目
五井西三百二十三丁目
五井西三百二十四丁目
五井西三百二十五丁目
五井西三百二十六丁目
五井西三百二十七丁目
五井西三百二十八丁目
五井西三百二十九丁目
五井西三百三十丁目
五井西三百三十一丁目
五井西三百三十二丁目
五井西三百三十三丁目
五井西三百三十四丁目
五井西三百三十五丁目
五井西三百三十六丁目
五井西三百三十七丁目
五井西三百三十八丁目
五井西三百三十九丁目
五井西三百四十丁目
五井西三百四十一丁目
五井西三百四十二丁目
五井西三百四十三丁目
五井西三百四十四丁目
五井西三百四十五丁目
五井西三百四十六丁目
五井西三百四十七丁目
五井西三百四十八丁目
五井西三百四十九丁目
五井西三百五十丁目
五井西三百五十一丁目
五井西三百五十二丁目
五井西三百五十三丁目
五井西三百五十四丁目
五井西三百五十五丁目
五井西三百五十六丁目
五井西三百五十七丁目
五井西三百五十八丁目
五井西三百五十九丁目
五井西三百六十丁目
五井西三百六十一丁目
五井西三百六十二丁目
五井西三百六十三丁目
五井西三百六十四丁目
五井西三百六十五丁目
五井西三百六十六丁目
五井西三百六十七丁目
五井西三百六十八丁目
五井西三百六十九丁目
五井西三百七十丁目
五井西三百七十一丁目
五井西三百七十二丁目
五井西三百七十三丁目
五井西三百七十四丁目
五井西三百七十五丁目
五井西三百七十六丁目
五井西三百七十七丁目
五井西三百七十八丁目
五井西三百七十九丁目
五井西三百八十丁目
五井西三百八十一丁目
五井西三百八十二丁目
五井西三百八十三丁目
五井西三百八十四丁目
五井西三百八十五丁目
五井西三百八十六丁目
五井西三百八十七丁目
五井西三百八十八丁目
五井西三百八十九丁目
五井西三百九十丁目
五井西三百九十一丁目
五井西三百九十二丁目
五井西三百九十三丁目
五井西三百九十四丁目
五井西三百九十五丁目
五井西三百九十六丁目
五井西三百九十七丁目
五井西三百九十八丁目
五井西三百九十九丁目
五井西四百丁目
五井西四百一丁目
五井西四百二丁目
五井西四百三丁目
五井西四百四丁目
五井西四百五丁目
五井西四百六丁目
五井西四百七丁目
五井西四百八丁目
五井西四百九丁目
五井西四百十丁目
五井西四百十一丁目
五井西四百十二丁目
五井西四百十三丁目
五井西四百十四丁目
五井西四百十五丁目
五井西四百十六丁目
五井西四百十七丁目
五井西四百十八丁目
五井西四百十九丁目
五井西四百二十丁目
五井西四百二十一丁目
五井西四百二十二丁目
五井西四百二十三丁目
五井西四百二十四丁目
五井西四百二十五丁目
五井西四百二十六丁目
五井西四百二十七丁目
五井西四百二十八丁目
五井西四百二十九丁目
五井西四百三十丁目
五井西四百三十一丁目
五井西四百三十二丁目
五井西四百三十三丁目
五井西四百三十四丁目
五井西四百三十五丁目
五井西四百三十六丁目
五井西四百三十七丁目
五井西四百三十八丁目
五井西四百三十九丁目
五井西四百四十丁目
五井西四百四十一丁目
五井西四百四十二丁目
五井西四百四十三丁目
五井西四百四十四丁目
五井西四百四十五丁目
五井西四百四十六丁目
五井西四百四十七丁目
五井西四百四十八丁目
五井西四百四十九丁目
五井西四百五十丁目
五井西四百五十一丁目
五井西四百五十二丁目
五井西四百五十三丁目
五井西四百五十四丁目
五井西四百五十五丁目
五井西四百五十六丁目
五井西四百五十七丁目
五井西四百五十八丁目
五井西四百五十九丁目
五井西四百六十丁目
五井西四百六十一丁目
五井西四百六十二丁目
五井西四百六十三丁目
五井西四百六十四丁目
五井西四百六十五丁目
五井西四百六十六丁目
五井西四百六十七丁目
五井西四百六十八丁目
五井西四百六十九丁目
五井西四百七十丁目
五井西四百七十一丁目
五井西四百七十二丁目
五井西四百七十三丁目
五井西四百七十四丁目
五井西四百七十五丁目
五井西四百七十六丁目
五井西四百七十七丁目
五井西四百七十八丁目
五井西四百七十九丁目
五井西四百八十丁目
五井西四百八十一丁目
五井西四百八十二丁目
五井西四百八十三丁目
五井西四百八十四丁目
五井西四百八十五丁目
五井西四百八十六丁目
五井西四百八十七丁目
五井西四百八十八丁目
五井西四百八十九丁目
五井西四百九十丁目
五井西四百九十一丁目
五井西四百九十二丁目
五井西四百九十三丁目
五井西四百九十四丁目
五井西四百九十五丁目
五井西四百九十六丁目
五井西四百九十七丁目
五井西四百九十八丁目
五井西四百九十九丁目
五井西五百丁目
五井西五百一丁目
五井西五百二丁目
五井西五百三丁目
五井西五百四丁目
五井西五百五丁目
五井西五百六丁目
五井西五百七丁目
五井西五百八丁目
五井西五百九丁目
五井西五百十丁目
五井西五百十一丁目
五井西五百十二丁目
五井西五百十三丁目
五井西五百十四丁目
五井西五百十五丁目
五井西五百十六丁目
五井西五百十七丁目
五井西五百十八丁目
五井西五百十九丁目
五井西五百二十丁目
五井西五百二十一丁目
五井西五百二十二丁目
五井西五百二十三丁目
五井西五百二十四丁目
五井西五百二十五丁目
五井西五百二十六丁目
五井西五百二十七丁目
五井西五百二十八丁目
五井西五百二十九丁目
五井西五百三十丁目
五井西五百三十一丁目
五井西五百三十二丁目
五井西五百三十三丁目
五井西五百三十四丁目
五井西五百三十五丁目
五井西五百三十六丁目
五井西五百三十七丁目
五井西五百三十八丁目
五井西五百三十九丁目
五井西五百四十丁目
五井西五百四十一丁目
五井西五百四十二丁目
五井西五百四十三丁目
五井西五百四十四丁目
五井西五百四十五丁目
五井西五百四十六丁目
五井西五百四十七丁目
五井西五百四十八丁目
五井西五百四十九丁目
五井西五百五十丁目
五井西五百五十一丁目
五井西五百五十二丁目
五井西五百五十三丁目
五井西五百五十四丁目
五井西五百五十五丁目
五井西五百五十六丁目
五井西五百五十七丁目
五井西五百五十八丁目
五井西五百五十九丁目
五井西五百六十丁目
五井西五百六十一丁目
五井西五百六十二丁目
五井西五百六十三丁目
五井西五百六十四丁目
五井西五百六十五丁目
五井西五百六十六丁目
五井西五百六十七丁目
五井西五百六十八丁目
五井西五百六十九丁目
五井西五百七十丁目
五井西五百七十一丁目
五井西五百七十二丁目
五井西五百七十三丁目
五井西五百七十四丁目
五井西五百七十五丁目
五井西五百七十六丁目
五井西五百七十七丁目
五井西五百七十八丁目
五井西五百七十九丁目
五井西五百八十丁目
五井西五百八十一丁目
五井西五百八十二丁目
五井西五百八十三丁目
五井西五百八十四丁目
五井西五百八十五丁目
五井西五百八十六丁目
五井西五百八十七丁目
五井西五百八十八丁目
五井西五百八十九丁目
五井西五百九十丁目
五井西五百九十一丁目
五井西五百九十二丁目
五井西五百九十三丁目
五井西五百九十四丁目
五井西五百九十五丁目
五井西五百九十六丁目
五井西五百九十七丁目
五井西五百九十八丁目
五井西五百九十九丁目
五井西六百丁目
五井西六百一丁目
五井西六百二丁目
五井西六百三丁目
五井西六百四丁目
五井西六百五丁目
五井西六百六丁目
五井西六百七丁目
五井西六百八丁目
五井西六百九丁目
五井西六百十丁目
五井西六百十一丁目
五井西六百十二丁目
五井西六百十三丁目
五井西六百十四丁目
五井西六百十五丁目
五井西六百十六丁目
五井西六百十七丁目
五井西六百十八丁目
五井西六百十九丁目
五井西六百二十丁目
五井西六百二十一丁目
五井西六百二十二丁目
五井西六百二十三丁目
五井西六百二十四丁目
五井西六百二十五丁目
五井西六百二十六丁目
五井西六百二十七丁目
五井西六百二十八丁目
五井西六百二十九丁目
五井西六百三十丁目
五井西六百三十一丁目
五井西六百三十二丁目
五井西六百三十三丁目
五井西六百三十四丁目
五井西六百三十五丁目
五井西六百三十六丁目
五井西六百三十七丁目
五井西六百三十八丁目
五井西六百三十九丁目
五井西六百四十丁目
五井西六百四十一丁目
五井西六百四十二丁目
五井西六百四十三丁目
五井西六百四十四丁目
五井西六百四十五丁目
五井西六百四十六丁目
五井西六百四十七丁目
五井西六百四十八丁目
五井西六百四十九丁目
五井西六百五十丁目
五井西六百五十一丁目
五井西六百五十二丁目
五井西六百五十三丁目
五井西六百五十四丁目
五井西六百五十五丁目
五井西六百五十六丁目
五井西六百五十七丁目
五井西六百五十八丁目
五井西六百五十九丁目
五井西六百六十丁目
五井西六百六十一丁目
五井西六百六十二丁目
五井西六百六十三丁目
五井西六百六十四丁目
五井西六百六十五丁目
五井西六百六十六丁目
五井西六百六十七丁目
五井西六百六十八丁目
五井西六百六十九丁目
五井西六百七十丁目
五井西六百七十一丁目
五井西六百七十二丁目
五井西六百七十三丁目
五井西六百七十四丁目
五井西六百七十五丁目
五井西六百七十六丁目
五井西六百七十七丁目
五井西六百七十八丁目
五井西六百七十九丁目
五井西六百八十丁目
五井西六百八十一丁目
五井西六百八十二丁目
五井西六百八十三丁目
五井西六百八十四丁目
五井西六百八十五丁目
五井西六百八十六丁目
五井西六百八十七丁目
五井西六百八十八丁目
五井西六百八十九丁目
五井西六百九十丁目
五井西六百九十一丁目
五井西六百九十二丁目
五井西六百九十三丁目
五井西六百九十四丁目
五井西六百九十五丁目
五井西六百九十六丁目
五井西六百九十七丁目
五井西六百九十八丁目
五井西六百九十九丁目
五井西七百丁目
五井西七百一丁目
五井西七百二丁目
五井西七百三丁目
五井西七百四丁目
五井西七百五丁目
五井西七百六丁目
五井西七百七丁目
五井西七百八丁目
五井西七百九丁目
五井西七百十丁目
五井西七百十一丁目
五井西七百十二丁目
五井西七百十三丁目
五井西七百十四丁目
五井西七百十五丁目
五井西七百十六丁目
五井西七百十七丁目
五井西七百十八丁目
五井西七百十九丁目
五井西七百二十丁目
五井西七百二十一丁目
五井西七百二十二丁目
五井西七百二十三丁目
五井西七百二十四丁目
五井西七百二十五丁目
五井西七百二十六丁目
五井西七百二十七丁目
五井西七百二十八丁目
五井西七百二十九丁目
五井西七百三十丁目
五井西七百三十一丁目
五井西七百三十二丁目
五井西七百三十三丁目
五井西七百三十四丁目
五井西七百三十五丁目
五井西七百三十六丁目
五井西七百三十七丁目
五井西七百三十八丁目
五井西七百三十九丁目
五井西七百四十丁目
五井西七百四十一丁目
五井西七百四十二丁目
五井西七百四十三丁目
五井西七百四十四丁目
五井西七百四十五丁目
五井西七百四十六丁目
五井西七百四十七丁目
五井西七百四十八丁目
五井西七百四十九丁目
五井西七百五十丁目
五井西七百五十一丁目
五井西七百五十二丁目
五井西七百五十三丁目
五井西七百五十四丁目
五井西七百五十五丁目
五井西七百五十六丁目
五井西七百五十七丁目
五井西七百五十八丁目
五井西七百五十九丁目
五井西七百六十丁目
五井西七百六十一丁目
五井西七百六十二丁目
五井西七百六十三丁目
五井西七百六十四丁目
五井西七百六十五丁目
五井西七百六十六丁目
五井西七百六十七丁目
五井西七百六十八丁目
五井西七百六十九丁目
五井西七百七十丁目
五井西七百七十一丁目
五井西七百七十二丁目
五井西七百七十三丁目
五井西七百七十四丁目
五井西七百七十五丁目
五井西七百七十六丁目
五井西七百七十七丁目
五井西七百七十八丁目
五井西七百七十九丁目
五井西七百八十丁目
五井西七百八十一丁目
五井西七百八十二丁目
五井西七百八十三丁目
五井西七百八十四丁目
五井西七百八十五丁目
五井西七百八十六丁目
五井西七百八十七丁目
五井西七百八十八丁目
五井西七百八十九丁目
五井西七百九十丁目
五井西七百九十一丁目
五井西七百九十二丁目
五井西七百九十三丁目
五井西七百九十四丁目
五井西七百九十五丁目
五井西七百九十六丁目
五井西七百九十七丁目
五井西七百九十八丁目
五井西七百九十九丁目
五井西八百丁目
五井西八百一丁目
五井西八百二丁目
五井西八百三丁目
五井西八百四丁目
五井西八百五丁目
五井西八百六丁目
五井西八百七丁目
五井西八百八丁目
五井西八百九丁目
五井西八百十丁目
五井西八百十一丁目
五井西八百十二丁目
五井西八百十三丁目
五井西八百十四丁目
五井西八百十五丁目
五井西八百十六丁目
五井西八百十七丁目
五井西八百十八丁目
五井西八百十九丁目
五井西八百二十丁目
五井西八百二十一丁目
五井西八百二十二丁目
五井西八百二十三丁目
五井西八百二十四丁目
五井西八百二十五丁目
五井西八百二十六丁目
五井西八百二十七丁目
五井西八百二十八丁目
五井西八百二十九丁目
五井西八百三十丁目
五井西八百三十一丁目
五井西八百三十二丁目
五井西八百三十三丁目
五井西八百三十四丁目
五井西八百三十五丁目
五井西八百三十六丁目
五井西八百三十七丁目
五井西八百三十八丁目
五井西八百三十九丁目
五井西八百四十丁目
五井西八百四十一丁目
五井西八百四十二丁目
五井西八百四十三丁目
五井西八百四十四丁目
五井西八百四十五丁目
五井西八百四十六丁目
五井西八百四十七丁目
五井西八百四十八丁目
五井西八百四十九丁目
五井西八百五十丁目
五井西八百五十一丁目
五井西八百五十二丁目
五井西八百五十三丁目
五井西八百五十四丁目
五井西八百五十五丁目
五井西八百五十六丁目
五井西八百五十七丁目
五井西八百五十八丁目
五井西八百五十九丁目
五井西八百六十丁目
五井西八百六十一丁目
五井西八百六十二丁目
五井西八百六十三丁目
五井西八百六十四丁目
五井西八百六十五丁目
五井西八百六十六丁目
五井西八百六十七丁目
五井西八百六十八丁目
五井西八百六十九丁目
五井西八百七十丁目
五井西八百七十一丁目
五井西八百七十二丁目
五井西八百七十三丁目
五井西八百七十四丁目
五井西八百七十五丁目
五井西八百七十六丁目
五井西八百七十七丁目
五井西八百七十八丁目
五井西八百七十九丁目
五井西八百八十丁目
五井西八百八十一丁目
五井西八百八十二丁目
五井西八百八十三丁目
五井西八百八十四丁目
五井西八百八十五丁目
五井西八百八十六丁目
五井西八百八十七丁目
五井西八百八十八丁目
五井西八百八十九丁目
五井西八百九十丁目
五井西八百九十一丁目
五井西八百九十二丁目
五井西八百九十三丁目
五井西八百九十四丁目
五井西八百九十五丁目
五井西八百九十六丁目
五井西八百九十七丁目
五井西八百九十八丁目
五井西八百九十九丁目
五井西九百丁目
五井西九百一丁目
五井西九百二丁目
五井西九百三丁目
五井西九百四丁目
五井西九百五丁目
五井西九百六丁目
五井西九百七丁目
五井西九百八丁目
五井西九百九丁目
五井西九百十丁目
五井西九百十一丁目
五井西九百十二丁目
五井西九百十三丁目
五井西九百十四丁目
五井西九百十五丁目
五井西九百十六丁目
五井西九百十七丁目
五井西九百十八丁目
五井西九百十九丁目
五井西九百二十丁目
五井西九百二十一丁目
五井西九百二十二丁目
五井西九百二十三丁目
五井西九百二十四丁目
五井西九百二十五丁目
五井西九百二十六丁目
五井西九百二十七丁目
五井西九百二十八丁目
五井西九百二十九丁目
五井西九百三十丁目
五井西九百三十一丁目
五井西九百三十二丁目
五井西九百三十三丁目
五井西九百三十四丁目
五井西九百三十五丁目
五井西九百三十六丁目
五井西九百三十七丁目
五井西九百三十八丁目
五井西九百三十九丁目
五井西九百四十丁目
五井西九百四十一丁目
五井西九百四十二丁目
五井西九百四十三丁目
五井西九百四十四丁目
五井西九百四十五丁目
五井西九百四十六丁目
五井西九百四十七丁目
五井西九百四十八丁目
五井西九百四十九丁目
五井西九百五十丁目
五井西九百五十一丁目
五井西九百五十二丁目
五井西九百五十三丁目
五井西九百五十四丁目
五井西九百五十五丁目
五井西九百五十六丁目
五井西九百五十七丁目
五井西九百五十八丁目
五井西九百五十九丁目
五井西九百六十丁目
五井西九百六十一丁目
五井西九百六十二丁目
五井西九百六十三丁目
五井西九百六十四丁目
五井西九百六十五丁目
五井西九百六十六丁目
五井西九百六十七丁目
五井西九百六十八丁目
五井西九百六十九丁目
五井西九百七十丁目
五井西九百七十一丁目
五井西九百七十二丁目
五井西九百七十三丁目
五井西九百七十四丁目
五井西九百七十五丁目
五井西九百七十六丁目
五井西九百七十七丁目
五井西九百七十八丁目
五井西九百七十九丁目
五井西九百八十丁目
五井西九百八十一丁目
五井西九百八十二丁目
五井西九百八十三丁目
五井西九百八十四丁目
五井西九百八十五丁目
五井西九百八十六丁目
五井西九百八十七丁目
五井西九百八十八丁目
五井西九百八十九丁目
五井西九百九十丁目
五井西九百九十一丁目
五井西九百九十二丁目
五井西九百九十三丁目
五井西九百九十四丁目
五井西九百九十五丁目
五井西九百九十六丁目
五井西九百九十七丁目
五井西九百九十八丁目
五井西九百九十九丁目
五井西十百丁目
五井西十百一丁目
五井西十百二丁目
五井西十百三丁目
五井西十百四丁目
五井西十百五丁目
五井西十百六丁目
五井西十百七丁目
五井西十百八丁目
五井西十百九丁目
五井西十百十丁目
五井西十百十一丁目
五井西十百十二丁目
五井西十百十三丁目
五井西十百十四丁目
五井西十百十五丁目
五井西十百十六丁目
五井西十百十七丁目
五井西十百十八丁目
五井西十百十九丁目
五井西十百二十丁目
五井西十百二十一丁目
五井西十百二十二丁目
五井西十百二十三丁目
五井西十百二十四丁目
五井西十百二十五丁目
五井西十百二十六丁目
五井西十百二十七丁目
五井西十百二十八丁目
五井西十百二十九丁目
五井西十百三十丁目
五井西十百三十一丁目
五井西十百三十二丁目
五井西十百三十三丁目
五井西十百三十四丁目
五井西十百三十五丁目
五井西十百三十六丁目
五井西十百三十七丁目
五井西十百三十八丁目
五井西十百三十九丁目
五井西十百四十丁目
五井西十百四十一丁目
五井西十百四十二丁目
五井西十百四十三丁目
五井西十百四十四丁目
五井西十百四十五丁目
五井西十百四十六丁目
五井西十百四十七丁目
五井西十百四十八丁目
五井西十百四十九丁目
五井西十百五十丁目
五井西十百五十一丁目
五井西十百五十二丁目
五井西十百五十三丁目
五井西十百五十四丁目
五井西十百五十五丁目
五井西十百五十六丁目
五井西十百五十七丁目
五井西十百五十八丁目
五井西十百五十九丁目
五井西十百六十丁目
五井西十百六十一丁目
五井西十百六十二丁目
五井西十百六十三丁目
五井西十百六十四丁目
五井西十百六十五丁目
五井西十百六十六丁目
五井西十百六十七丁目
五井西十百六十八丁目
五井西十百六十九丁目
五井西十百七十丁目
五井西十百七十一丁目
五井西十百七十二丁目
五井西十百七十三丁目
五井西十百七十四丁目
五井西十百七十五丁目
五井西十百七十六丁目
五井西十百七十七丁目
五井西十百七十八丁目
五井西十百七十九丁目
五井西十百八十丁目
五井西十百八十一丁目
五井西十百八十二丁目
五井西十百八十三丁目
五井西十百八十四丁目
五井西十百八十五丁目
五井西十百八十六丁目
五井西十百八十七丁目
五井西十百八十八丁目
五井西十百八十九丁目
五井西十百九十丁目
五井西十百九十一丁目
五井西十百九十二丁目
五井西十百九十三丁目
五井西十百九十四丁目
五井西十百九十五丁目
五井西十百九十六丁目
五井西十百九十七丁目
五井西十百九十八丁目
五井西十百九十九丁目
五井西十一百丁目
五井西十一百一丁目
五井西十一百二丁目
五井西十一百三丁目
五井西十一百四丁目
五井西十一百五丁目
五井西十一百六丁目
五井西十一百七丁目
五井西十一百八丁目
五井西十一百九丁目
五井西十一百十丁目
五井西十一百十一丁目
五井西十一百十二丁目
五井西十一百十三丁目
五井西十一百十四丁目
五井西十一百十五丁目
五井西十一百十六丁目
五井西十一百十七丁目
五井西十一百十八丁目
五井西十一百十九丁目
五井西十一百二十丁目
五井西十一百二十一丁目
五井西十一百二十二丁目
五井西十一百二十三丁目
五井西十一百二十四丁目
五井西十一百二十五丁目
五井西十一百二十六丁目
五井西十一百二十七丁目
五井西十一百二十八丁目
五井西十一百二十九丁目
五井西十一百三十丁目
五井西十一百三十一丁目
五井西十一百三十二丁目
五井西十一百三十三丁目
五井西十一百三十四丁目
五井西十一百三十五丁目
五井西十一百三十六丁目
五井西十一百三十七丁目
五井西十一百三十八丁目
五井西十一百三十九丁目
五井西十一百四十丁目
五井西十一百四十一丁目
五井西十一百四十二丁目
五井西十一百四十三丁目
五井西十一百四十四丁目
五井西十一百四十五丁目
五井西十一百四十六丁目
五井西十一百四十七丁目
五井西十一百四十八丁目
五井西十一百四十九丁目
五井西十一百五十丁目
五井西十一百五十一丁目
五井西十一百五十二丁目
五井西十一百五十三丁目
五井西十一百五十四丁目
五井西十一百五十五丁目
五井西十一百五十六丁目
五井西十一百五十七丁目
五井西十一百五十八丁目
五井西十一百五十九丁目
五井西十一百六十丁目
五井西十一百六十一丁目
五井西十一百六十二丁目
五井西十一百六十三丁目
五井西十一百六十四丁目
五井西十一百六十五丁目
五井西十一百六十六丁目
五井西十一百六十七丁目
五井西十一百六十八丁目
五井西十一百六十九丁目
五井西十一百七十丁目
五井西十一百七十一丁目
五井西十一百七十二丁目
五井西十一百七十三丁目
五井西十一百七十四丁目
五井西十一百七十五丁目
五井西十一百七十六丁目
五井西十一百七十七丁目
五井西十一百七十八丁目
五井西十一百七十九丁目
五井西十一百八十丁目
五井西十一百八十一丁目
五井西十一百八十二丁目
五井西十一百八十三丁目
五井西十一百八十四丁目
五井西十一百八十五丁目
五井西十一百八十六丁目
五井西十一百八十七丁目
五井西十一百八十八丁目
五井西十一百八十九丁目
五井西十一百九十丁目
五井西十一百九十一丁目
五井西十一百九十二丁目
五井西十一百九十三丁目
五井西十一百九十四丁目
五井西十一百九十五丁目
五井西十一百九十六丁目
五井西十一百九十七丁目
五井西十一百九十八丁目
五井西十一百九十九丁目
五井西十二百丁目
五井西十二百一丁目
五井西十二百二丁目
五井西十二百三丁目
五井西十二百四丁目
五井西十二百五丁目
五井西十二百六丁目
五井西十二百七丁目
五井西十二百八丁目
五井西十二百九丁目
五井西十二百十丁目
五井西十二百十一丁目
五井西十二百十二丁目
五井西十二百十三丁目
五井西十二百十四丁目
五井西十二百十五丁目
五井西十二百十六丁目
五井西十二百十七丁目
五井西十二百十八丁目
五井西十二百十九丁目
五井西十二百二十丁目
五井西十二百二十一丁目
五井西十二百二十二丁目
五井西十二百二十三丁目
五井西十二百二十四丁目
五井西十二百二十五丁目
五井西十二百二十六丁目
五井西十二百二十七丁目
五井西十二百二十八丁目
五井西十二百二十九丁目
五井西十二百三十丁目
五井西十二百三十一丁目
五井西十二百三十二丁目
五井西十二百三十三丁目
五井西十二百三十四丁目
五井西十二百三十五丁目
五井西十二百三十六丁目
五井西十二百三十七丁目
五井西十二百三十八丁目
五井西十二百三十九丁目
五井西十二百四十丁目
五井西十二百四十一丁目
五井西十二百四十二丁目
五井西十二百四十三丁目
五井西十二百四十四丁目
五井西十二百四十五丁目
五井西十二百四十六丁目
五井西十二百四十七丁目
五井西十二百四十八丁目
五井西十二百四十九丁目
五井西十二百五十丁目
五井西十二百五十一丁目
五井西十二百五十二丁目
五井西十二百五十三丁目
五井西十二百五十四丁目
五井西十二百五十五丁目
五井西十二百五十六丁目
五井西十二百五十七丁目
五井西十二百五十八丁目
五井西十二百五十九丁目
五井西十二百六十丁目
五井西十二百六十一丁目
五井西十二百六十二丁目
五井西十二百六十三丁目
五井西十二百六十四丁目
五井西十二百六十五丁目
五井西十二百六十六丁目
五井西十二百六十七丁目
五井西十二百六十八丁目
五井西十二百六十九丁目
五井西十二百七十丁目
五井西十二百七十一丁目
五井西十二百七十二丁目
五井西十二百七十三丁目
五井西十二百七十四丁目
五井西十二百七十五丁目
五井西十二百七十六丁目
五井西十二百七十七丁目
五井西十二百七十八丁目
五井西十二百七十九丁目
五井西十二百八十丁目
五井西十二百八十一丁目
五井西十二百八十二丁目
五井西十二百八十三丁目
五井西十二百八十四丁目
五井西十二百八十五丁目
五井西十二百八十六丁目
五井西十二百八十七丁目
五井西十二百八十八丁目
五井西十二百八十九丁目
五井西十二百九十丁目
五井西十二百九十一丁目
五井西十二百九十二丁目
五井西十二百九十三丁目
五井西十二百九十四丁目
五井西十二百九十五丁目
五井西十二百九十六丁目
五井西十二百九十七丁目
五井西十二百九十八丁目
五井西十二百九十九丁目
五井西十三百丁目
五井西十三百一丁目
五井西十三百二丁目
五井西十三百三丁目
五井西十三百四丁目
五井西十三百五丁目
五井西十三百六丁目
五井西十三百七丁目
五井西十三百八丁目
五井西十三百九丁目
五井西十三百十丁目
五井西十三百十一丁目
五井西十三百十二丁目
五井西十三百十三丁目
五井西十三百十四丁目
五井西十三百十五丁目
五井西十三百十六丁目
五井西十三百十七丁目
五井西十三百十八丁目
五井西十三百十九丁目
五井西十三百二十丁目
五井西十三百二十一丁目
五井西十三百二十二丁目
五井西十三百二十三丁目
五井西十三百二十四丁目
五井西十三百二十五丁目
五井西十三百二十六丁目
五井西十三百二十七丁目
五井西十三百二十八丁目
五井西十三百二十九丁目
五井西十三百三十丁目
五井西十三百三十一丁目
五井西十三百三十二丁目
五井西十三百三十三丁目
五井西十三百三十四丁目
五井西十三百三十五丁目
五井西十三百三十六丁目
五井西十三百三十七丁目
五井西十三百三十八丁目
五井西十三百三十九丁目
五井西十三百四十丁目
五井西十三百四十一丁目
五井西十三百四十二丁目
五井西十三百四十三丁目
五井西十三百四十四丁目
五井西十三百四十五丁目
五井西十三百四十六丁目
五井西十三百四十七丁目
五井西十三百四十八丁目
五井西十三百四十九丁目
五井西十三百五十丁目
五井西十三百五十一丁目
五井西十三百五十二丁目
五井西十三百五十三丁目
五井西十三百五十四

庄左衛門の墓碑

天明八戊申年十二月十九日
自性院念譽道吽居士
先祖代々
寛性院法善頓大姉
天保五甲午年四月十日
左側面
寛政庚申十二月十有九日自性院十有三回忌也義男敬
義謁實道而請立碑紀其父祖之功績而不朽其事修冥福
□□貧道老□之人不腆之辞謝不敏不可按状金杉庄左
衛門字満雅姓藤原法諱念譽法字敬道法號自性院東都
人也其父齊藤與惣左衛門満政母又齊藤氏東奥會津人
也其先齊藤丹州世世食封會津川沼城也天正之后辞封
辞印而竄于川沼郡宇内村以家相□十有六世生満政満
政風神高邁少有識量長辞父□而遊学東都多年其□□
為矣及頒白而探於巌穴南総而養老境芝原矣安永癸巳
裏側
十月十日没芝原也號自覚院齊譽旭圓也満政娶同姓女
生満雅東都金杉街故満雅曾姓曰金杉母齊藤氏寛延己
巳二月五日没東都也號心光院知海全明也満雅少穎悟
辞藻絶麗長好学研窮詩書而有慷慨大志以為　國家建
百世之利□聞總中少食塩而唯中興力請　宦煮三年奮
然不止天明中　宦逐有　命闢總海之塩田為満雅為鹽
盡出彙財而盡力塞海水引潮汐煮海水而製食鹽巨萬石
益興利多多不可言也故　宦命鹽田而號金杉濱使満雅
鹽田主也夫鹽者五味之長　國家之利嗚呼其功績最大
右側面
也於戯電影難馳幻化誰人乎天明戌申十二月十有九日
満雅奄然没矣義男敬義等哀悼爛旰茶毘密蔵寺焉敬義
嗣而勤其職弗怠孜孜勉之行事醇如也嘻余雖不敏修冥
福以三密之秘印乃銘曰
　其先有功　其嗣有聲
　了了明徹　自心静清
発教山三十六世
　傳燈大阿闍梨法印澄慶題
義男　金杉庄左衛門敬義立

天明八戊申年（一七八八）十二月十九日　庄左衛門死亡
天保五甲午年（一八三四）四月十日　〃　夫人死亡
寛政十二庚申年（一八〇〇）十二月十九日　〃　十三回忌
安永二癸巳年（一七七三）十月十日　〃　父死亡
寛延二己巳年（一七四九）二月五日　〃　母死亡

謁＝まみえる。身分の高い人に面会する。
貧道＝修行のいたらない人。不腆＝厚くないこと。粗末なこと。
辞謝＝辞退する。ことわる。不敏＝才知、才能に乏しいこと。
不可＝そうでない。よくない。いけない。
状＝ありさま。ようす。すがた。のべる。手紙。書付
按＝おさえる。みまわり調べる。おしとどめる。
風神＝風貌にあらわれた精神
世世＝代々。高邁＝衆にぬきんでてすぐれていること。
識量＝広く物事を知っていること。
頒白＝中老人、白髪まじりの頭髪。巌穴＝世間をはなれた所。
老境＝年とった境涯。頴悟＝才知がすぐれていること。
辞藻＝美しい詩文。絶麗＝すぐれてうるわしい。
慷慨＝意気が盛んで感激しやすいこと。
官煮＝政府で塩を製すること。
命＝申しつける。いいつける。おおせ。なづける。
興利＝利益をおこし盛にする。電影＝いなびかり。
馳＝すぎさる。幻化＝幻のように変化する。かはりうつる。
奄然＝にわかなさま。蘭干＝涙などの盛んに流れるさま。
孜孜＝つとめいそしむ。行事＝おこなった事柄。
醇＝まじりけがない、純粋である。厚い。まことがある。
三密＝秘密の身・口・意の三業。手に契印を結ぶ身密、口に真言を唱える口密、心に本尊を観ずる意密とをいう。
了了＝かしこいさま。あきらかなさま。ついに。
明徹＝はっきりしている。明白。あきらかで余すことなく見通すこと。



斉藤一久家繰り位牌
（庄左衛門の祖父母）
明和四（一七六七）丁亥正月廿八日
朝山栄宗信士
霊位
別峯妙傳信女
明和三（一七六六）戊八月廿一日

（位牌裏）
会津国上宇内邑
斉藤与惣右衛門
同妻

（庄左衛門の父）
安永巳二年（一七七三）
齋譽旭圓大徳
十月十日

（位牌裏）
自性院念譽道吽父也
金杉浜先祖也
上総芝原村西福寺苑
正年七十一才

（庄左衛門の母）
寛延二巳年（一七四九）
知海全妙信女
二月五日

（位牌裏）
自性院念譽道吽母也
奥州会津宇内村苑
正年四拾六才

位牌から推測できる事
庄左衛門の母は会津宇内村にて四十六才で亡くなり、父はその時四十七才であった。庄左衛門の父は上総芝原村西福寺苑にて七十一才で亡くなった。庄左衛門の亡くなった年令については書かれていないので、母が亡くなった時何才であったのか、はっきりわからないが二十代半ばくらいであったろうか。そうすると、庄左衛門の亡くなった年令は六十才半ばくらいになる。庄左衛門は五十代後半、六十に近い年で塩浜開発を決断したことになる。

今井芳雄家合同位牌
春月淨光信女　享保九年三月朔日　（墓碑は信士、又兵衛の父）
夏月妙光信女　享保五年六月朔月　（又兵衛の母）
祖光道然信士　寛政三亥年十月十日　（又兵衛）
榮雪妙永信女　天保二卯年十二月六日　（又兵衛の妻）
榮春貞潤信女　天保十二丑年閏正月廿一日　（三代又兵衛の妻か）
正壽院實阿淨翁信士　弘化三丙年九月七日　（二代又兵衛）
延壽院實吽貞淨信女　嘉永六丑年九月九日　（二代又兵衛の妻）

五所の満蔵寺にある今井氏の墓（位牌型、全高およそ二メートル）
右側面
元禄六天　宝暦十三未
清空道喜信士　安室貞光信女
六月五日　四月十五日
宝永二天
宗致信士　霊　施主　五良兵衛
元禄十六天　正月廿五日
秋月妙心信女　寛保元辛酉
八月七日　涼雲道覚信士
六月廿二日

正面
天和二年九月廿一日　覚性院
智堪道通信士　一阿常観信士
寛保二壬戌九月十二日　霊位
瑜説妙寿信女　自性院心蓮
元禄六天六月十二日　妙淨禅定尼
寛保二年三月廿二日

左側面
享保九天
春月淨光信士
三月朔日

享保五天
夏月妙香信女
六月朔日

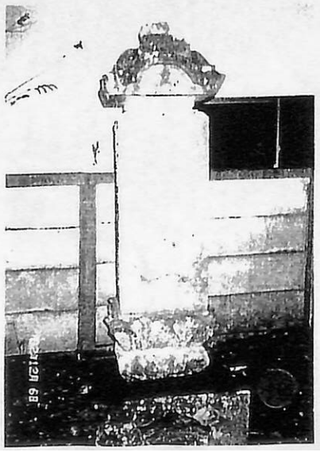
満蔵寺墓碑塚
又兵衛の墓（東側下段　角柱七十センチ）
寛政三亥十月十日
祖光道然信士

榮雪妙永信士
天保二卯十二月六日

今井氏

霊
元文五年
寒空妙照信女
十一月廿四日

施主　又兵衛



二代又兵衛（南側下段　角柱七十センチ）
弘化三丙午九月七日
正寿院實阿淨翁信士
延寿院實吽貞淨信女
嘉永六癸丑九月九日

各霊

金杉浜新田

五井金杉から北側、飯香岡八幡宮周辺を除く村田川までの海岸に広大な金杉浜の塩田がひろがったこともあった。「市原郡誌」に「天明年間江戸金杉村の人庄左衛門、坂本村の人又兵衛等塩田を五所西方の海辺に開き、同四年甲辰初めて金杉浜新田と名づけ後五所村に合すとあり。けだし現時のあるものは其時出来しものにはあらざるが、爾来製塩の発達に伴い暫次海面を埋立て、遂に今日見るが如き状態に至れるなり」とある。

①金杉浜開発

庄左衛門の子孫、白金町の斉藤一久家（屋号でばり）に幕府とやりとりした開発文書の一部写五枚が、また重郎兵衛を名乗り代々君塚村名主を勤めた斉藤操家（屋号さかや）に明治十五年五所村との浦争いで証拠物として集められた別の開発文書や絵図画、年貢割付、皆済証文などの写し多数が保管されていた。

これらから開発までの経緯をまとめると

天明二年（一七八二）九月、金杉村庄左衛門、坂本村又兵衛が八幡村より君塚村までの水際洲およそ百五十町歩（五十万坪）の開発を願出る。

天明三年（一七八三）八月、普請役秋月恒次郎、長谷川権内が出役として実地取調べのうえ八十六町五反九畝と決定。

天明四年（一七八四）七月、願主二人と八幡、五所、君塚村三か村惣代の連署で勘定奉行に願出、許可を得て八十六町五反六畝十五歩（二十六万坪）開発の請書を提出。

工事は天明四年から六年までの三年間、費用は三千両余（今の五～六億円）で、庄左衛門と又兵衛は手先の者多数を引きつれて工事を指揮し、開発した塩浜は金杉浜新田と名づけられた。幕府への塩場地代は天明四年～六年、三ヶ年分として三十八両三分と永二百十七文九分を先納、四年目天明七年より役永三十両一分と永五十八文三分を年々上納することを取決め、地代三年分は天明五年二月に、七年の役永は八年三月、八年分は翌寛政元年三月に皆済している。

また文書には庄左衛門、又兵衛ら塩浜関係者が最寄りの村内に移り住んだことも記されているが、このことを裏付けるように五所の藤田常治家（金主子孫＝屋号ふじや）では旧宅を取壊した際、天明五年の棟札が見つかっている。

②金杉浜新田の範囲

庄左衛門らが開発した塩浜は八幡神社前と八幡港（浜本町）を除く君塚から村田川までの附洲に作られた面積およそ八十六町におよぶ。わかりやすいよう大まかな区画を図－2に加筆した。五井金杉、五井海岸の大半、八幡海岸通りの半分、五所の一部、飛地は八幡北町、八幡浦、八幡海岸通りの一部でその範囲は現在の埋立工業地帯に近い。二百余年の昔、これだけの大工事が個人の力で行われたことに驚かされる。図－7に斉藤操家所蔵図面の一つ「天明度古図の写」を載せた。外周に堤防を築き、内側は数百に区画した細い溝などの細部も読み取れ、金杉浜塩田を物語る貴重な資料といえよう。

③庄左衛門の墓

五所の共同墓地、全高およそ七十センチの角柱行状碑で台石はない。庄左衛門の十三回忌に養子敬義が立て、碑文は海保の遍照院住職澄慶が書いた。

天明八戊申年十二月十九日
自性院念譽道吽居士
先祖代々
寛性院法善頓大姉
天保五甲午年四月十日
寛政（十二年）庚申十二月十有九日は自性院の十有三回忌なり。

義男敬義實道にまみえて碑を立てんことを請う。その父祖の功績をしるして其事朽ちず。冥福を修むれば□□す。貧道老□の人、不腆の辞謝敏ならず、可ならず。状をしらぶるに金杉庄左衛門、字は満雅、姓は藤原、法諱は念譽、法字は敬道、法号は自性院、東都の人なり。その父は齊藤與惣左衛門満政、母は又齊藤氏、東奥会津の人なり。その先齊藤丹州は世世食（じき）を会津川沼城に封ずるなり。天正の後封を辞し、印を辞して川沼郡宇内村に竄（かく）れ、以て家相□十有六世、満政生る。満政風神高邁、わかくして識量有り、長じて父□辞して東都に遊学、多年其□□を為す。頒白に及びて、巌穴を南総において探り、老境を芝原に養う。安永（二年）癸巳十月十日芝原に没するなり。自覚院齊譽旭圓と号するなり。満政同姓の女を娶り満雅生れる。東都金杉街ゆえ満雅はかつて姓を金杉という。母齊藤氏は寛延（二年）己巳二月五日東都に没するなり。心光院知海全明と号するなり。満雅おさなくして穎悟、辞藻絶麗、長じて学を好み、詩書を研究して慷慨、大志有り。以て国家の為、百世の利□を建てんとす。總中に食塩少なきを聞きてただ中興につとめ官煮を請うこと三年、奮然として止まず、天明中官逐に命有りて満雅をして総海の塩田を闢（ひら）く、彙（あつ）めた財を出し盡くして盡力す。海水を塞ぎ、潮汐を引き、海水を煮て食塩を製す。巨万の石（こく）は益々利を興す、多多言うべからざるなり。故に官命（おおせて）塩田をして金杉浜と号し、満雅をして塩田の主とせしむなり。それ塩は五味の長、国家の利嗚呼（ああ）その功績最大なり。於戲（ああ）電影馳せ難く、幻化はたれか。天明（八年）戊申十二月十有九日満雅奄然として没す。義男敬義等哀悼爛旰（蘭干）して密蔵寺に茶毘す。敬義嗣ぎて其職を勤め怠らず、孜孜としてこれに勉む、行事（こうじ）は醇如なり。嘻（ああ）余（よ）不敏といえども冥福を修むるに三密之秘印をもってす。すなわち銘に曰く

其先有功　其嗣有聲
了了明徹　自心静清
発教山三十六世　伝燈大阿闍梨法印澄慶題す
義男　金杉庄左衛門敬義立てる

（漢文を読み下し文とした）

また開発者の一人又兵衛の子孫は、五所の今井芳雄家（屋号又兵衛）と思われる。同家の位牌に寛政三年十月十日の没年と法名祖光道全信士を刻んでいる。

④金杉浜のその後

塩場は大風の波浪や洪水には無力であった。「稿本五井町歴史年表」によると「君塚村浦の天明度開発塩田は寛政二年と三年の二回の洪水のため海側の塩田と水田囲い堤は破壊され元の海面となった」。ことに三年九月四日の大風雨（台風）は海鳴り、江戸湾一帯に高波が押し寄せた。「その返しの波に行徳、船橋塩浜一円に潰れ民家流失す。そのほか家屋吹損じ。川々水溢る。関東筋すべて洪水あふる」（続徳川実記）。未曾有の大津波で金杉浜塩田も全壊した。わずか四年で破滅的な打撃を受け、その後本格的な復旧工事が行われることはなかった。斉藤操家

（「上総市原」第十四号より抜粋）

2－22

文書の明治五年「塩浜起立取調書」によれば天明期の元反別八十五町に対し、文化元年、文政四年、六年の田畑返しが十六町六反、塩稼場十九町四反、欠荒浜四十九町五反を記録している。庄左衛門、又兵衛の築いた塩田の六〇％が海のもくずと消え、二〇％が明治におよんだことになる。

明治初年の製塩家は「市原市史」に「今津朝山村に十数戸、君塚に十二戸、五井に九戸、八幡・五所金杉・姉崎にそれぞれ一戸」、明治十三年の「千葉県統計表」には五所金杉村、君塚村、松ヶ島村、今津朝山合計で塩浜四十三町六反、竈数三十七、製塩量七百二十一石とある。明治四十四年製塩業は官営となったため全部廃業された。当時製塩家は五所金杉一戸、君塚四戸、五井一戸であった。

昭和三十三年から五所、君塚地先海面は埋立てが始まり工業地帯に変わった。金杉川、五井金杉の地名が金杉浜の名残を今に伝える。五井の小倉直利家に明治三十年九月建立された塩竈神社の石碑と歌碑がある。五井金杉浜新田に建っていたのを、農地解放の時現在の地に移した。歌碑には「塩浜に出て海上をながむれば浪にうかぶる船は四方へと」「海がんは出水のふ世きり届きくるはまつばら浪こさじとは」と刻む。また、五井塩浜に関わる宿大神社は五井の市（いち）の神様としていまに信仰されている。

主要な金杉浜開発文書

寅九月六日松平(松本の誤記)伊豆守様へ御願い申し上げ候趣恐れながら書付を以て申し上げ奉り候。

東叡山御領、武州豊嶋郡金杉村庄左衛門、恐れながら申し上げ奉り候。上総国西濱市原郡八幡村より君塚村迄の内、水際洲に相成り候所、およそ塩浜百五十町歩程、この度相見立て申し候処、近年段々塩値段引きのぼらせ高値に罷り成り候処、西国塩関東奥筋まで数舟入津仕り候処、悪風の節は難船等御座候へばなお又高値に罷り成り、其節は在々にてことの外難渋仕り候儀も御座候えば恐れながら願上げ奉り候。

一御公儀様御益筋儀は外々の塩浜並び合いに仰せ付けさせられ下し置かれ候わば、恐れながら有り難く存じ奉り候。

一御地頭様方御益として塩浜一町歩に付き、永一貫文宛御上納仕度存じ奉り候。

右願いの通り仰せ付けさせられ下し置かれ候わば在々万民御助けにも相成り申すべきと恐れながら存じ奉り候。何とぞ御慈悲を以て仰せ付けさせられ下し置かれ候わば有り難き仕合わせに存じ奉り候。以上

天明二寅年九月六日　　東叡山御領武州豊嶋郡金杉村
(勘定) 御奉行所様　　願人　庄左衛門　(斉藤操家文書)

(前文欠落) 御吟味の上、家屋敷所持仕らざる者につき御取用遊ばされ難き旨、仰せ渡され承知畏み奉り候。これにより深川森下町家持山田屋久右衛門と申す者身元慥かなる者に付、金主証人に相頼み相談仕り候処、右塩浜願いの通り仰せ付けられ候わば諸入用金差支えなく出金仕るべき旨申し候。相違御座なく候間、何とぞ右の者金主証人に仕度存じ奉り候。則ち久右衛門より取置き候証文写し相添え願い上げ奉り候。以上

天明三年卯五月四日　　武州金杉村　願人　庄左衛門
御奉行所様　　同国坂本村　同　又兵衛

(前文欠落) 御年貢永三十五貫文、四分一塩にて御春屋納めに致し候ように仰せ付けられ候。もっとも値段の儀は一俵につき五斗入れにて両に二十俵皆定値段にて上納致し候ように仰せ渡され候。この儀、行徳並の段仰せ付けられ候。新塩浜の儀に候えば年季何年と切り候ようの段、仰せ聞かされ候処、この儀土手堀割等塩焼き諸道具、諸道具共に三千両余も相掛り出金方へ掛合いの儀、永々と相掛け合い罷り在り候間、只今年季に御請け仕り候は新塩浜の儀に御座候えば、この段何とぞ御勘弁の上、永代に仰せ付けられ下し置かれ候ように、達て願い上げ奉り候。其後御呼込みにて御聞済みの段仰せ渡され候。然るうえは、御見分差し遣わされべき趣仰せ渡され、口書相極まり右の趣一同に畏み奉り候。願人両人ならびに金主山田屋久右衛門口書印形差し上げ、赤井越前守様御前にて趣仰せ付けられ候。

天明三卯年五月十日

一同五月下旬深川森下町山田屋久右衛門金主御礼の儀、町御奉行所へ仰せ遣わされ候由にて、町三年寄樽屋御掛りにて町役人一同罷り出られ、逸々御礼の上御聞済にて相済み申し候。

以上　卯六月

同七月廿二日御差紙につき罷り出
差し上げ申す一札の事

一塩浜開発反別八十六町五反九畝十五歩

右は上総国市原郡八幡、五所、君塚、三ヶ村地先海辺通り附洲塩場開発請地の積り、武州豊嶋郡金杉村庄左衛門、同国同郡坂本村又兵衛、深川森下町久右衛門、先達て御奉行所へ願い奉り候処、御普請役中場所御見分の上右三人の者共ならびに私共村方惣代の者共、御奉行所へ召し出され再応御吟味の上右場所願人共へ願いの通り、塩浜開発仰せ付けられ候に付き、この度地所御引渡しの為御越しになられ一同御立会わせ、右地所願人へ引渡しなされ仰せ渡され候趣一同承知畏み奉り候。もっともこの度地所御引渡し方の儀一同立会い見届け候上は、後日に右御引渡し方の儀に付き、御願いがましき儀申し上げまじく候。これにより願人ならびに村々一同連印差上げ申す所くだんの如し。

天明四辰七月十日　東叡山領武州豊嶋郡金杉村百姓庄左衛門
　　同国同郡坂本村　百姓又兵衛
　　深川森下町家持　金主証久右衛門
水野信濃守、永井美濃守、松本伊豆守、村上甲斐守、河野善十郎、佐野九右衛門知行
　上総国市原郡八幡村佐野九右衛門知行　惣代名主勘三郎
有馬備後守領分、南條八十郎、森弥五郎知行
　同国同郡五所村　名主善八、半三郎、重右衛門
川口久助知行　同国同郡君塚村名主要助、組頭五兵衛
有馬備後守領分　同国同郡五井村名主清左衛門、同久右衛門
稲垣藤四郎様御手代　宮本政兵衛殿　(斉藤操家文書)
(原文を読み下し文とした)

終りに

市原に海岸がなくなって久しい。かつてこの町に潮の香りが満ち溢れ、江戸時代、市原の代表的産業であった製塩のための塩田が浜辺一帯に連なったことなど想像すらできない。二百余年の昔、塩浜開発にロマンをかけた男たちの古文書五枚から始まった製塩史探りも、旧名主宅からお借りしたダンボール一箱の書付の出現でようやく概要が見え始めた。ほかにも紹介したい文書も多かったが、残念ながら紙面の制約でその一部にとどめた。江戸時代、遠い地より移り住み画期的な発明をした製塩技術者としての勘兵衛、江戸商人を金主に大事業に挑んだ庄左衛門、又兵衛の勇気と決断、その後の盛衰は一編のドラマをみるようで感動なしに語ることはできない。

23－24

房総の戊辰戦争

竹内　克

天保１３年（１８４２）	アヘン戦争
嘉永　６年（１８５３）	ペリー来航
安政　元年（１８５４）	ペリー再来航
	日米和親条約締結
	福山藩主・老中首座阿部正弘と交渉
安政　３年（１８５６）	米初代駐日総領事ハリス下田に着任
	佐倉藩主･老中首座堀田正睦と会談
	堀田、孝明天皇と会う
安政　５年（１８５８）	井伊直弼大老となる
	日米修好通商条約の無勅許調印
万延　元年（１８６０）	３月３日桜田門外の変
文久　元年（１８６１）	皇女和宮、将軍家茂に降嫁　関宿藩主･老中久世広周公武合体策に努力　一宮藩主・若年寄加納久徴が降嫁の供奉総奉行
慶応　２年（１８６６）	将軍家茂没　徳川慶喜１５代将軍になる　孝明天皇崩御
慶応　３年（１８６７）	１０月１４日大政奉還上表
	１２月９日王政復古の大号令
	９日夜小御所会議で徳川慶喜に辞官納地を求める
	１２月２５日江戸薩摩藩邸の焼き打ち事件
	１２月２８日慶喜納地を拒否
慶応　４年（１８６８）	１月２日幕軍１万５千大阪から京都に向かう
	１月３日鳥羽伏見の戦い（戊辰戦争）始まる　大多喜藩主・老中格大河内正質幕府側全軍総督
	１月４日錦の御旗
	１月５日淀藩（１０万２千石）から入城を断わられる
	１月６日津藩（３２万３千石）の砲撃を受ける　幕府軍大阪城に
	２月１１日慶喜、上野寛永寺に謹慎
	４月１１日江戸無血開城　慶喜水戸へ　旧幕兵５千人ゲリラ戦のため関東各地へ
	旧幕府海軍副総裁榎本武揚軍艦７隻で品川から館山湾へ
	旧幕府歩兵奉行大鳥圭介２千人の部隊市川へ

	旧幕府撤兵頭福田八郎右衛門率いる撤兵隊５大隊千５百人千葉へ　木更津真里谷の真如寺に本営　徳川義軍府
慶応　４年（１８６８）	４月２９日
	撤兵隊第一大隊（江原素六大隊長）中山法華経寺に本拠
	撤兵隊第二大隊船橋大神宮に本拠
	撤兵隊第三大隊姉ヶ崎妙経寺に本拠
	閏４月３日江戸川での銃撃戦
	市川･船橋戦争
	請西藩主林忠崇出陣
	閏４月７日五井・姉ヶ崎戦争
	佐倉藩鶴牧藩帰順
	（東海道先鋒総督府の柳原前光副総督）
	鶴牧藩士５人旧幕府軍に加わり参戦
	藩主水野忠順謹慎
	閏４月７日昼で姉ヶ崎での戦闘終了
	閏４月８日夜新政府軍が義軍府本営真如寺に到着　火を放つ
	閏４月１２日柳原前光副総督大多喜城に入る　佐貫藩飯野藩帰順
	閏４月２２日柳原副総督江戸に帰る
	５月１５日上野戦争
明治　２年（１８６９）	５月
	北海道函館五稜郭で榎本武揚降伏
	一年半の戊辰戦争終わる

慶応４年（１８６８）は９月で明治と改元
この年房総には２３の藩があった

譜代の抵抗

・鶴牧藩（１万５千石）藩主水野忠順
　藩士５人が旧幕府軍に参加　瑞安寺　謹慎
・佐貫藩（１万６千石）藩主阿部正恒
　家老相場助右衛門が勤皇を説くが暗殺される　藩論は左幕に傾き藩士数十名が旧幕府

軍に参加　新政府軍に城明け渡し　謹慎

・関宿藩（５万８千石）藩主久世広文１０歳
勤皇佐幕で藩論割れる　広文を連れて彰義隊に参加　隠居

・請西藩（一万石）藩主林忠崇（ただたか）（２０歳）
藩主が脱藩　新政府軍と戦う　小田原・沼津・会津・仙台で転戦　領地没収

・飯野藩（２万石）藩主保科正益（まさあり）
会津藩と親類　謹慎　２０人が脱藩して林軍に参加　２人が切腹　藩を救う　浄信寺

・勝山藩（１万２千石）藩主酒井忠美
帰順　藩士３１人が脱藩し林軍に参加　４人が戦死５人が行方不明　２人が切腹して藩を救う　佐貫三宝寺

・館山藩（１万石）藩主稲葉正善
父正巳は陸軍奉行、海軍総裁を歴任　海陸から旧幕府軍と戦うことを求められ藩士１３人（実数はもっと多い）が脱藩して林軍に参加　正巳の活躍で藩論を恭順にまとめる

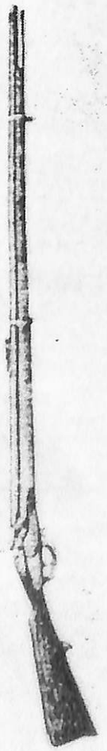
安政元年（１８５４）

幕末期の房総城下町地図

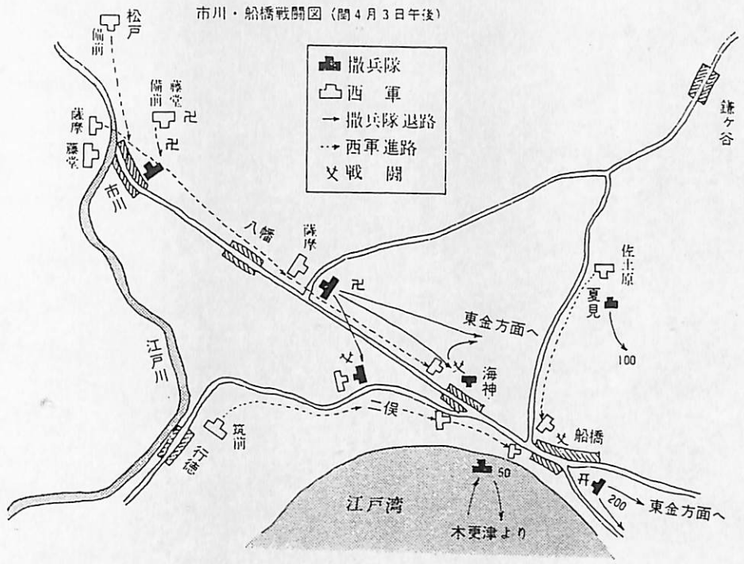
★数字は石高（単位万）

旧幕府軍兵士のその後

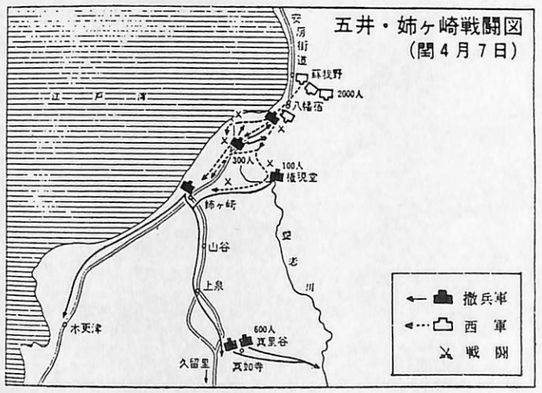
木更津から船で江戸へ
市原市町田の佐久間章さん
市原市八幡の旅籠藤田屋



ミニエー銃



出陣直前の忠崇



妙経寺（姉ヶ崎）